

# IMAJ

ニュース  
NO.71

発行年月日 1993年8月10日  
 発行所 (社)国際MRA日本協会  
 〒113 東京都文京区千駄木4-13-4  
 TEL.03-3821-3737  
 FAX.03-3821-6479  
 発行人 住友 義輝  
 頒 価 1部200円

●世界家族の仲間入り ●信頼できる人との出会い ●新時代に必要な情報 ●心身の健康 ●問題解決の秘訣



## CRTレポート

### コー円卓会議中間会議、東京と 華南（中国）で開催される

■期間…一九九三年四月一八日（日）～二十五日（日）  
 ■場所…東京・華南（中国）  
 ■メインテーマ

【東京会議】  
 「真の共生を目指す日米欧の協調と改革」

【華南会議】  
 「華南経済の展望、中国ビジネス哲学と戦略、日米欧との協力の可能性」

コー円卓会議（日米欧経済人  
 円卓会議・CRT）中間会議は、  
 去る四月十八日から二十五日  
 にかけて、東京と中国、華南にお  
 いて開催された。

東京会議は、「真の共生を目指  
 す日米欧の協調と改革」という  
 メインテーマで行われ、昨年か  
 らの中心テーマである「競争と  
 協調を両立させる共生」の可能  
 性について活発な意見交換がな  
 された。以前から日本人参加者  
 が紹介していたKYOSEIとい  
 う理念が昨年八月のコー円卓  
 会議で日本側から包括的に提起  
 されて以来、欧米参加者の間で

### ◀主な内容▶

- CRTレポート コー円卓会議中間会議 1P
- MRA国際セミナー（カンボジア）  
 カンボジア平和のための信頼作り 13P
- インド、青年スタディーコースに参加して 飯島亜由子 18P
- 相馬雪香さん、ニュースステーションに出演 20P
- 総選挙で選挙浄化運動を展開 23P
- アジアセンターODAWARA 新しくスタート 25P
- 山崎房一の『あなたに百点満点』（最終回） 27P
- 住友吉左衛門氏とフランク・ブックマン博士 31P

この内容や適用の可能性につ  
 いて幾度か討議が行われたこと  
 もあって、KYOSEIについて  
 様々な角度から具体的な検討が  
 なされた。

国際シンポジウムもNHK衛  
 星放送第一で放映された。

(1)世界的不況を招いた各国  
 の構造的問題

「日米欧の現状」について、  
 三地域から報告がなされたが、  
 その多くはこれまで世界の経済  
 活動の基盤となってきたシステ



●心臓ペースメーカー製造で世界的なメーカー、メドトロニック社のウインストン・ウォーレン会長

ムや価値全体に対する信頼の喪失という共通した認識である。ある米国側参加者は、「黒字を減らさない日本は、結局市場開放をしないと見なされ、もはや忍耐の緒が切れたという風潮が存在する」と報告し、保護主義的政策が強化される前に、早急な対応を要すると訴えた。

これに対してある欧州側参加者は、不況と失業が欧州最大の問題だと訴えた上で、「CRTが始まった七年前であれば、その原因は日本にありと日本叩きに走ったろうが、今では、それは我々自身の構造に問題があり、我々自身が招いたものであることを認識している」と語った。旧ソ連という最大の市場を失い、過剰設備と過剰人員と効率悪い産業が残る旧東欧を抱えるヨー

ロッパは、旧東欧からの経済難民の流入も相俟って失業対策はもはやお手上げという状況である。これに不正と見られる貿易や価格競争が外から加われば、管理貿易を益々増長させることになる」と警告した。

一方、ある日本人参加者は、消費者の購買力低下を招いた今日の日本の不況は、自ら招いた構造的な原因によるもので、それはバブル経済の元凶となった不公正な仕組みや対応そのものにあると指摘した。そして日本の規制緩和を進めると共に、こうした談合体質、系列取引、会計基準、独占禁止法、税制などを含めた仕組みを変えて、国際的なルールと整合した健全な市場経済を営むことが真の共生を可能にする道だと訴えた。

また米国側参加者は、政府と国民、経営者と労働者、売り手と買い手の間の信頼関係が喪失し、治安、教育、住宅といった問題も含めて政府の手には任せておけないという風潮が高まっているとして、政府機能が充分発揮されていないという構造上の問題提起した。

## (2) 共生を妨げるもの

各国に見られるこうした状況は、共生を妨げている要因である。「共生とは調子の良い時だけに通用するものか？ それとも不況下でも機能するものか？」という率直な質問も欧州側から出された。これに対して日本人参加者は、「企業は利益を出せなければ株主に対する責任が取れない。利益を出して富を創造し、分配するのが企業の第一義的役割である。これをなすには、イノベーションを行うことであり、新しい製品、市場、販売組織等を創造していくことである。共生という最近、富の分配面が強調されるばかりか、中には棲み分け論やカルテルと取られかねないような議論が横行しているが、共生の第一歩は企業のイノベーションへの努力である」と切り返した。そして、「それは、特に日本企業に多い政府に頼る癒着体質や談合体質を排除する一方で、横並び的過当競争に訴えないような真に自由で公正な競争が不可欠である。これが競争相手とも共



●経済同友会との昼食懇談会 速水優代表幹事(日商岩井会長)、山城彬成副代表幹事(日本鋼管会長) 賀来龍三郎副代表幹事(キャノン会長) 他が出席



●経団連との「共生と企業倫理に関する懇談会」で発言する三好正也経団連事務総長

つながる」と述べた。また、別の日本人参加者は、「いったん不信や対立が起きると、それは益々エスカレートし易い。だからなおさら『共生』を強調し合うべきである。政府はどうしても国の利益の追求にしばられるので、世界との共生を最も担えるのはビジネスである」と述べた。日本の内需拡大、米国の予算削減、欧州の社会政策の基盤といったマクロ経済の整備も共生に欠かせないということも指摘された。

### (3) ミネソタ企業規範

昨年八月にスイス、コーの第七回コー円卓会議で発表された「ミネソタ企業規範」グローバル・ビジネスの倫理的基盤を指して「(IMAJ)ニュースNo.69参照」は、コーにおける討議の成果を踏まえて加筆修正され、今回の中間会議に提出された。この規範は「共生を具体的に適用する一つの道」であると規定し、この両者の間には、「共通する相互補完的な関係が存在する」と前文に謳ってある。そして作成に加わった一人は、「良き企業とは、法を遵守するだけで

は充分でない。株主以外のコミュニティ、取引先、顧客といったステークホルダー(利害関係者)に配慮した経営が望まれる。これなく事業活動を行えば、ステークホルダーの反感を招き、いずれ大きな経営困難にぶつかる。率先して企業が倫理規定を策定して行動することが、企業自身の利益につながる」と述べた。

昨年と比較して、「経済成長を刺激することこそ、広く社会に果たすことのできる企業ならではの特別の貢献である。この機会を果たすためには利益が基本である」という主要原則が加えられた。また企業は、「政府に課せられた社会一般に対する義務を認識し、ビジネスと社会各層との調和を促す政府の政策や行動を支援する」という項目や、「諸国の富を増大し、製品とサービスの公平な分配を最終的に可能にするには、公正な経済競争が最も効果的な方法である」と信じ、以下の責任を負う」として、「社会的、環境的に有益な競争行為を推進すると共に、競争者間相互の尊敬を示す」という記述

が加わった。既にロシアなど、異なる文化や慣行を持つ国々から関心が寄せられている他、国連の場における検討も計画されている。

### (4) 日米欧の共同行動と発信

「急激な円高は、日本経済を破壊し全てを変えるかも知れない。日本の競争力も低下し、これまでに日米欧で話し合ってきた貿易問題もほぼ解決に向かうのではないかと思う。むしろ日米欧以外の世界的な問題に日米欧が協力し合って努力を傾ける時ではないか」と、日本人参加者が提案した。

「EC内の競争の適正化や産業協力の推進は、EC委員会や各国政府ではなく、民間企業に任せられている分野である。金融、貿易、環境、輸送、通信などを通じた企業活動のグローバル化に伴って、国際的に受け入れられる企業倫理に基づいた共生が必要である」と欧州参加者が発言した。また、ロシアの再建、世界の環境問題や科学技術分野等における国際協力の分野も挙げられた。一方、欧州に進



●シンポジウムはほぼ満席の盛況



●日経ホールで開かれた国際シンポジウム

出した日本のメーカーが地域を活性化し、雇用を創出し、輸出まで行っているといった貢献がもつと知らされるべきであると、欧州参加者が提案した。

しかし、「日本が約束したことの実行やフォローアップがどうなったかを日本は世界に充分伝えていない。この点で、長年日本の信用が失われてきた。事実関係の提示を行うことが日本の信頼回復に不可欠である」と米

「政治はもはや優先順位やその解決策を自らで決定できなくなっている。米国で最も力を持っているのはテレビの「トーク・シヨウ」である。市民からテレビ局に送られる何千、何万というメッセージが世論を左右し、政治家を動かす。市民の感情や反発が貿易問題を取り返しのないところまで追い込まないよう、市民の理解を高める啓蒙活動を行っていくことが緊急課題だ」と各国への協力を呼びかけた。

これに対してある日本人参加者が、「日本政府は、これまで外国に対してどころか、自国民に

対しても約束を守れない状況にあった。やっと最近、実勢に近い経済運営を行い、達成可能な約束ができるようになってきた」と述べた他、別の日本人は、「日本人は個々人としては約束を守るとして信頼されているのに、日本の指導者が外にした約束が信頼されていないという状況は、日本人自身を変えていくべきだ」と発言した。

### (5) 優先項目と今後の課題

益々緊急を要する状況の中で、今後取り組むべき項目が様々な角度から提案された。

①貿易インバランスという現象を生む真の原因の追求。貿易ブロック化への対応

②日本がこれまで対外的に約束した事項とその達成状況の整理

③管理貿易が、保護主義のためでなく、現在閉ざされている市場を開くために行われるべきことへの認と監視

④様々なインバランス(貿易インバランス、南北格差、財政赤字)は、高い方を落として低い方に合わせるのではなく、低い方を引き上げるという対応の努力

⑤公正な競争に関する規範やルールの確立と調整(ダンピングの定義なども含む)

⑥環境問題(中国の環境汚染、ロシアの核の安全性、森林破壊等)

⑦失業と雇用創出

そしてこれらを各国政府に任せるのではなく、経済界自らが取り組んでいくことが強調された。

### (6) 経団連、経済同友会幹部との会合

との会合

円卓会議後、経団連及び経済同友会幹部とC R Tとの懇談会が開かれたが、「ミネソタ規範」に対する高い評価と共に、共生、企業倫理の推進や企業貢献活動について波長の合った意見交換が行われた。

### 入会のご案内

(1) 正会員 個人 年額 3,000円

法人 年額 50,000円

(2) 賛助会員 個人 年額 1,000円以上

法人 年額 50,000円以上

郵便振替口座 東京八一三八二八九

口座名 社団法人 国際M R A日本協会

会員の皆様には、①内外のM R A国際会議やレセプションなどに参加して外国の方々と交流していただく機会の提供、②機関誌「M A J ニュース」等の送付、③講演会、月例会等のご案内を行なっています。

●世界家族の仲間入り

●信頼できる人との出会い

●新時代に必要な情報

●心身の健康

●問題解決の秘訣

事業の拡大と事務局基盤整備のために特別協力年会費制度(口50,000円(寄付扱い・年額)を設けました。ご協力頂ける方は資料を事務局までご請求下さい。

郵便振替口座番号

東京五一四一三六六五

口座名 社団法人国際M R A日本協会特別協力年会費

協会特別協力年会費

●経団連の三好正也事務総長は、「海外企業との間に公正で公平な競争を実現することや、競争の結果として一方の企業が属する国が経済的困難に直面した場合の救済策のあり方」などを

共生として取り組んでいると述べた他、「法人税の高い日本では、税金を収めていれば社会貢献は政府に任せるといふ考えの企業が主流を占めていたが、社会の成熟と共に、民間の発想による社会貢献活動の重要性が認識されてきた」ことを紹介した。また、経団連消費者生活者委員会委員長代行の立石信雄氏（オムロン副会長）は、「共生には『カルテルである』、『勝者の論理』といった誤解もあるようだが、

共生とは①レベル・プレイング・フィールドの実現、②保護主義政策の撤廃、③行政介入の撤廃、市場開放、④効率的システムである系列への外国企業の参入促進、⑤各企業における企業行動の見直し、⑥外国企業とのパートナーシップ、ストラテジック・アライアンスの実現であり、以上で摩擦が回避されない場合は、G A T Tのセーフガードのよう

な措置を模索することであると述べた。

●経済同友会の速水優代表幹事（日商岩井会長）は、ミネソタ企業規範を「グローバルビジネスのための共通の基準を作ろうという試み」として評価し、「アダム・スミスが『国富論』の中で述べている通り、利己心の追求が見えざる手に導かれて社会の富をもたらす。しかし、同時期の『道徳情操論』の中で、彼は自己規制に重きを置いている。自己規制なき利己心は不公正と見なされ、社会には受け入れられない。我々はアダム・スミスの自由競争の哲学が、厳しいモラルのもとに成立していたことに留意すべきだ」と述べた。

### (7) 国際シンポジウムは

#### N H Kで放映

●コー円卓会議の理念とアプローチを広く伝えたいという目的で、今回も経済広報センターとの共催による国際シンポジウムが、四月二十日日経ホールで開催された。この模様は五月一日にNHK衛星放送で一時間半にわたって東アジア各国も含めて

放映された。これはC R Tのオリビエ・ジスカールデスタン

（欧州経営大学院副理事長、仏）、チャールズ・デニー（A D Cテレコム会長、米）、ウォルター・ホードリー（フーパー研究所シニア・リサーチフェロー、米）、小笠原敏晶ニフコ社長、ジヤパンタイムズ会長、賀来龍三郎キャノン会長、川上哲郎住友電工会長、山下勇東日本旅客鉄道会長の六氏が参加し、佐和隆光京都大学経済研究所長がコーディネーター役を務めた。

●参加者の発言の主なポイントは以下の通りである。

#### （ジスカールデスタン）

「共生」の概念を失業問題と南北の格差の解消に適用してほしい。日本の黒字に対する恐れは、いまだに根強いので、①雇用に重点を置いた海外投資、②保護主義とダンピングの排除、③貧困の撲滅と環境保護への資金援助を提案したい。

#### （デニー）

企業は社会から、①法的な保



●コーディネーターの佐和隆光京都大学経済研究所長



●右から山下勇JR東日本会長、川上哲郎住友電工会長、ウォルター・ホードリー、フーパー研究所シニア・リサーチフェロー

護、②道路、港湾、安全といった社会基盤の使用、③社会が教育した労働力などの提供を受けている。従って、企業が長期的に発展するには、社会の健全性が非常に重要である。もし政治が解決できなければ、企業が社会的問題に対応する責任がある。

(ホードリー)

「祖国が崩壊したのは、誰もお互いに信用しなかったからだ。祖国も信用しなかったし、その祖国も世界を信用しなかった」と、最近モスクワであるロシア人から聞かされた。時間はかかるが、信用を取り戻す必要がある。社会をリードする人の責任感とそれを支える仕組み、そして指導者と国民の間の信頼が重要だ。

(小笠原)

共コは長年にわたり、世界の紛争や対立に和解や解決をもたらす仲立ちを務めた場所であり、特別の雰囲気、精神が宿っている。従って、コ円卓会議は他の多くの国際会議と異なる以下の特徴を持っている。一、本音

の対話を行う。二、相手方を批判するよりも、先ず自分の会社や地域から変えていくということとをモットーとしている。三、単に経済や貿易摩擦問題に限らず、社会的な問題や人類共通の問題も含めて、参加者が自分の周囲に影響を及ぼす触媒の役割を目指していく。

(賀来)

冷戦後、地球上に多発している問題に対して、日米欧とも政府が解決能力を失っている。そこで共生の理念にたった解決が模索されるべきだ。国内のインバランス、先進国間のインバランス、南北間のインバランス、現世代との未来の世代とのインバランスの解消のために企業が努力を傾けるべきだ。

(川上)

四百年前に遡る住友グループの理念にもある「信用を重んずる」ことが経済活動の基本だ。日本のルールやシステムも国際的な基準に合わせていくことが重要で、さまなければ日本は孤児になる。



●経団連会館でのレセプションで挨拶するアメリカ最大の保険会社ザ・ブルデンシャルのガーネット・キース副会長

(山下)

人にはモノを作るということと、他のグループの人にサービスするという二つの特権が神から与えられている。この特権を間違ひなく行使しているかどうかという反省の上にたった上で、世界に共生を呼びかけるべきだ。

(佐和)

資本主義のタイプには欧米型の市場型資本主義(消費者資本主義)と日本型の開発型資本主義(生産者資本主義)という異質の資本主義がある。資本主義



ビデオ「MRAの歴史」(VHS)

好評頒布中

頒価2,000円(送料込)

お申し込みは事務局へどうぞ

03(3821)3737

自体も自国と共に変わるべきもので、新しい環境に適應する形で共生を目指すべきだ。(国際シンポジウム会議録ご希望の方は実費でおわけ致しますので、事務局へお申し込み下さい)。

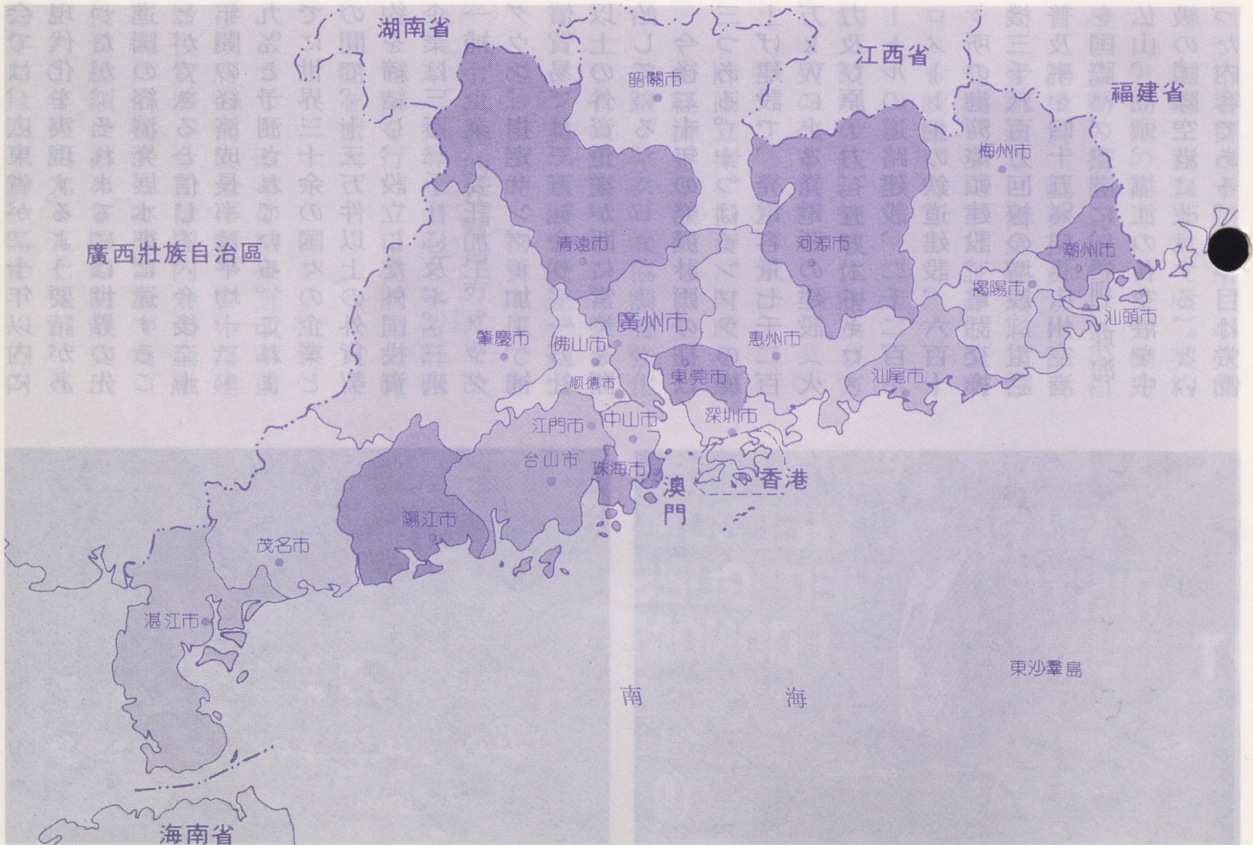
### (8) 国賓待遇に準ずるもてなし

昨年夏の第七回コー円卓会議(CRT)以来、欧米参加者から、中国、華南を訪問してはどうか、という提案が出され、キヤノン賀来会長に対してその可能性を打診するよう要請がなされた。理念ある経営者として中国側から信頼の厚い賀来会長からの話で、しかも日米欧の経済人が一緒に参加するというこの申し入れに対し、広東省の朱森林省長の招きという形で今回の訪問が実現した。訪問の時期は、ちょうど中国全土の物産を集め、世界から十万人の人々が訪れる広州交易会の時期と重なったにもかかわらず、こうした経緯もあつてか、宿舎や会場等の確保、通訳や接遇、交通対策などに関して国賓待遇に準ずる配慮をいただいた。通常は一週間かかる

行程 日間で消化できたのも、

日中交流の第一人者、日中協会村井隆常務理事の精力的な仲介もあつて、パトカーの先導や警備体制等に格別の配慮をいただいたためである。今回の目的は、世界で最も高い経済成長率を誇る華南経済の実情と今後の展望を視察し、中国の社会主義市場経済の基盤にある理念や問題点、さらには日米欧との協力の可能性を探るというものであつた。そして急激な成長に伴う社会のひずみや問題の解決にCRTの経験やアプローチ、さらにはMRAの理念を役立てたいとの期待も込められていた。中国最南端、香港とマカオに隣接する広東省は、一九七八年の改革開放政策以来、全国の総合試験区と指定され目ざましい発展を遂げた。今回は広州市における会議をはさんで、深圳、東莞、番禺、中山、珠海の各市、経済特区を巡る八百キロに及ぶ強行日程であつた。訪問先では、市長などからこれまでの成果や今後の遠大な計画を聞くと共に、日独仏の各外資との合弁企業の

●広東省の地図



工場や港湾、六十三階の超高層ビル、市場、博物館、ゴルフ場、そして広州交易会も視察させてもらった。そして行く先々で、獅子舞、音楽隊を含む華やかな出迎えを受けた。

### (9) 広東省長、各市長揃い 踏みの広東経済検討会

一日がかりで行われた広東経済検討会には、朱森林省長、省のいわば外務大臣にあたる黄群外事弁公室主任など省の幹部の他に、開放都市の広州、経済特区の深圳、珠海、汕頭の各市市長（一部は副市長）が一緒に出席した。深圳は最も有名な経済特区となり、頻繁に訪れる外国の首脳をもてなす厉有為市長は最近来日し、宮沢首相とも会見している。珠海の梁広大市長は昨年、中国全体の有名人調査で、鄧小平氏に次ぐ人気を集めた名物市長である。広州日本総領事館の古森利貞総領事によれば、これらの人々が一堂に会したのは前例がないとのことである。会議には他に、アメリカ、タイ、ベトナムの総領事がオブザーバーとして参加した。

### (11) 二十年以内に世界の先進国に

午前中の会議では、朱森林省長、四市長（副市長）を含む八名が、成長著しい広東経済の歩みと現状について多角的観点から詳細なプレゼンテーションを行った。以下はその概要である。

一九七八年に改革開放の序幕が開いてから、中国政府は広東省を全国の総合試験区と指定して、他省に先駆けた政策を進めた。七八年から九二年にかけて、生産額は四・六倍増加（年率平均一・三％成長）、このうち工業生産額は十一倍増加（年率平均一・九・五％成長）である。同様に対外貿易輸出額が十二倍、輸入額が五十一倍に増加した。全国の総人口の二十分の一（六千四百万人）、面積が四十五分の一（十八万平方キロ）しか占めない広東省が、全国総生産額の約十分の一、対外貿易の約六分の一を占めている。八六年以来、全国の省の中で輸出額もトップである。

昨年初めの鄧小平氏の華南訪問（市視察）以降の共産党大

会では、広東省が二十年以内に現代化を実現するよう要請があったが、それまでには世界の先進国の経済発展水準に達することができると信じる。今後二十年間の経済成長率は平均十二・九％と予測されている。これまでに世界三十余の国々の企業との間で、十三万件以上の外貨契約を締結し、設立した外国投资企业は三万三千社に及ぶ。「三来一補」企業（委託加工、ノックダウン、指定サンプル加工、補償貿易）は三万社余り、一万社以上の外資企業が既に営業を開始している。

今後二十年の発展計画の柱は三つある。一つはインフラの繰上げ建設で、発電容量七千二百万kWに上る発電所の建設（火力及び原子力）、五万二千キロメートルの道路建設、二千二百キロメートルの鉄道建設、六百十ヶ所の港湾埠頭建設、電話交換機三千八百万回線の増設（電話普及率を四十五％に）、広州空港を国際ハブ空港に、深圳、珠海、仏山、汕頭、湛江の各空港を中級の国際空港に改良する、といった内容である。●目は労働



●夕食会で挨拶する朱森林広東省長



●広州市中央ホテルで開かれた「広東経済検討会」CRT側から20名、広東省側から11名が参加



集約形産業から資金、技術集約形産業への転換で、①原油加工能力、エチレン生産能力、尿素生産量を高める石油化学工業、②二〇二〇年までに自動車製造能力を百万台にまで高める自動車産業、③マイクロエレクトロニクス、大規模集積回路を中心とする電子産業、④年産一千万トンの大型製鋼所の建設を含む金属産業、の四つからなる。三つ目は社会主義市場経済に基づくさらなる改革開放政策の推進である。



●中国側議長を務めた黄群広東省外事弁公室主任

## (12) 市場化改革戦略の成果と今後の課題

これまでの経済体制改革の方法は以下の通りである。

(一) 市場経済メカニズムに対するミクロな実体の創造

国有企業の自主権の拡大に引き続き、所有権を明確にした上で株式会社へ転換させた(現在三百社)。次に公有制モデルを改革し、郷鎮(農村)企業、「三資」(合弁会社、外資系、単独資本企業等の外資系)企業、私企業、自営業に分散させ、市場競争のムードや環境を作った。

(二) 価格と価値の乖離を改革し、市場体系を発展

商品の価格決定権を市、県、或は企業に委譲。大部分の農業副産品や日用工業製品の価格自由化。価格管理体制の自由化。市場施設の建設(総合市場十ヶ所、專業

市場百六十四ヶ所、小売品市場二百五十六ヶ所)。契約労働制の推進による労働力流動の措置。銀行以外の信託投資、証券投資、内部資金調達など資金融通形式を発展。深圳には証券取引所も設置。

(三) 政府の经济管理体制及び方式の改革

計画立案、投資、財政を含む经济管理権限を市や県に委譲。マクロな協調を強化し省の重要プロジェクトやインフラ建設を優先。過去のお役所的、物質本位で命令主義的な管理方式を改革、指導を中心とする計画立案を行い、市場調節の範囲を拡大。

こうした改革の結果、改革前は政府の補助金に頼っていた建設投資が、今では国内外の金融市場に依拠するようになった。投資総額に占める国の財政支出が八〇年の四九・五七%が、九〇年には四・四一%に、一方内



●陳開枝広州市副市長



●左から厉有為深圳市長、梁広大珠海市長、陳作民汕頭市副市長



●会議を傍聴する各国外交団 右から二人目、古森利貞総領事、右から五人目、ユージン・マーチン米国総領事

外の投資の占める割合は五〇・四三％から九五％へと一変した。

今後、アジアの「四匹の龍」(韓国、台湾、香港、シンガポール)に追いつくための改革を進めるには以下のことが必要である。

(一) 所有権の関係を整理し、近代的な企業制度を確立する。

● 企業先ず、法律に基づいて合理

的に所有権を区分し、企業が独自に支配できる法人資産を形成し、独立採算制の基礎を作る。国の税収と収益(利潤)を分離し、国と企業の分配関係を規範化する。ことよって企業間の平等な競争を促す。国の所有権と経営権の分離を原則として、国有資産の管理機能と資産の運用機能を分離する。

(二)

分野別の市場の育成と整備

分野別の市場を健全で、協調的で、開放され、秩序だった競争のある市場として体系的に発展させる。金融、証券、労務、技術、情報、所有権、不動産といった分野の商品化、市場化を早める。

(三)

社会主義市場経済は、市場での調節に任せるだけでなく、政府がマクロに効果的な管理や調整を行う必要がある。産業構造の調整や産業政策の実施である。

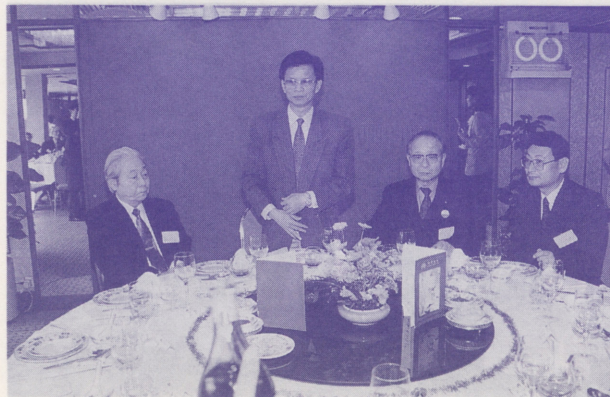
(四) 社会保障制度の改革

社会保険体系を確立し、企業の平等な競争と従業員の合理的な流動を促す。

これらはいまだに不十分であり、市場化の改革戦略を実行して社会的生産力を発展させることが重要だ。

(13) 倫理を基盤にした共生の呼びかけ

CRT側の団長として挨拶したキヤノン賀来会長は、「CRTが、人種や宗教、国や体制の違いを乗り越えて、先ず自分の態度を変えることから相手を理解し、地球上の人類の幸福を目指そうという人々が集うスイス、コーのMRA会議場で行われてきたために、誤解や悪意を解消して建設的な合意点を見つけ出すことに役立ってきた」と述べて、MRAの四つの道徳標準(絶対正直、絶対純潔、絶対無私、絶対愛)や世界的な活動を紹介した。また、「日米欧が長い不況下であり、旧東欧が混乱している中で、社会主義が公正な富の



●仕食会で挨拶する袁李松东莞市副市长



●CRT一行を歓迎する湯炳權中山市市長

分配と資本主義の活性化を生かした社会主義市場経済による驚異的な成長は、人類に大きな希望を与える」と述べた。さらには、「経済が活気を呈すると、しばしば人間が拜金主義のとりこになるが、個人の道徳とか倫理は健全な社会を維持するために大変重要である」という日米欧の共通の経験を紹介すると共に、「社会規範やものさしが異なる国々が、こうした違いを乗り越えて世界の人類が安心して共生できるために共に手を携えていきたい」と中国側と呼びかけた。

また、アメリカを代表したホードリー氏は、

「貿易、雇用、生活水準の向上には、最低3%の成長が必要だ。世界経済は益々グローバル化して相互依存化しており、互いの文化、価値観、法体系を越えた協力が不可欠だ。中国が世界経済、世界市場の仲間入りをするためにコーの原則や理念が役立つと思う」と述べた。

また、ヨーロッパを代表したアンブローゼッティ氏は、

「冷戦時代には連帯した産業国は今や互いに敵対している。益々

ビジネス倫理の確立に取り組み、互いが自分の領域を越えて世界の問題の解決に共に取り組むことが不可欠だ」と訴えた。

#### (14) 率直な質疑応答

午後はあらかじめ提出し合った質問事項について交互に解答し合った。

CR T側から中国側への質問は、主に華南経済の急激な発展に対する懸念が中心であった。

華南（沿岸）地域と北部、内陸地域とのインバランス、発展に伴う社会問題、人口流入問題、都市化問題、環境問題等であった。また、海外からの投資に対する環境整備として税制、金融制度、社会保険など法整備についても強い関心が寄せられた。

これに対して広東省側は、広東省の成功の経験を他省に生かすと共に、他省での雇用創出を助けるような政策を行っていること答えた。そしてCR T側に環境面、省エネルギー問題についての資金面、技術面での協力を要請した。

広東省からの質問は、GAT T、NAFTA、ECなど先進

国の経済システムと世界経済の動向に対するものと、広東省に対する外国投資誘致拡大のための進出側の条件や環境改善について、に大別された。

また、日本のバブル経済崩壊について質問が寄せられたが、「欧米の成功に学んで経済発展を遂げた日本は、その陰にあった問題点や犠牲に目を向けず傲慢になったことがバブルの原因だ。中国は日本の失敗からも学んでほしい」（日本経済新聞和佐論説委員）。

「円高から立ち直った直後にバブルが訪れたが、好景気がずっと続くと思われ多大な投資を行って大きな被害を蒙った。現在の中国は日本のバブルとは異なるだろうが、調子のいい時期には気を付けていただきたい」（日産自動車増副社長）。

「十一年間仕えた松下幸之助が『治に居て乱を忘れず』、つまり順調な時にも万一の事態に備える、という言葉が常々唱えられたが、自由貿易や自由市場が保たれるように、お互いに協力していく必要がある」（神奈川大学松岡教授）といった率直なコメントが

日本側から出された。

#### (15) コー円卓会議に広東省より代表派遣

最後に自ら発言を求めた朱森林省長は、次のように述べた。

「今回のCR Tの訪問は、中国と日米欧の相互理解と合作に大いに役立つ。日米欧がこれまで抱えた問題や失敗した経験も参考になった。自由と規律の調和を図りながら、秩序を乱さない法律的整備が必要だ。中国式の自由、人権、伝統や特色を生かして段階的に進めることだ。急速な経済発展や繁栄の中で起こりうる問題に注意し、健全な経済発展を目指したい。人材育成と道徳、環境問題等に関してCR T側からうかがった有意義な話を活かしていきたい」。

翌日、珠海市長主催夕食会の席に、コー円卓会議に広東省から代表を派遣したいとの朱森林省長からのメッセージが伝えられた。（終）

## コー円卓会議中間会議参加者

〒東京会議のみ参加 C 華南会議のみ参加  
ウインストン・ウオーレン夫妻(〒)

メドトロニック社社長

### ■ヨーロッパ

オリビエ・ジスカールデスタン(〒) (フランス)

ヨーロッパ経営大学院(INSEAD) 副理事長

ジャコフ・ジスカールデスタン(C) (ドイツ)

クラフト・セネラル・フーズ、アジア太平洋洋部長

フレデリック・バウアー MST 社社長 (ドイツ)

フレデリック・シヨック夫妻 シヨック社社長 (ドイツ)

アルフレッド・アンプロセツテ夫妻 (イタリア)

アンプロセツテイグルーフ会長 (イタリア)

ピーター・フライト(〒) アリアアス銀行頭取 (スイス)

ネビル・クーパー夫妻 (イギリス)

トップマネー・シメント・パートナーシップ会長

ピーター・ヒンツェン (オランダ)

コー円卓会議コーディネーター、評論家

### ■アメリカ

ジョン・チャールトン チェイスマンハッタン銀行常務

チャールズ・デニ夫妻 ACOアレミニテシヨシス社社長

ロバート・ガーツツ夫妻

ノースウエスタンシステール&ワイヤ社社長兼CEO

ウォルター・ホードロー

フーバー研究所シラフェロー元パンクオブアメリカ副社長

ガイネット・キース(〒) フルデンシャル保険副社長

ロバート・マクレガー夫妻

ミネソタ企業責任センター所長

ジョン・モア夫妻(〒)

ベクトルグループ取締役(極東担当)

ジェイムズ・モンゴメリー

バンナム・ワールドサービス元会長

ロジャー・パーキンソン夫妻(〒)

コウルス・メディア副社長

エリック・サイモンソン(〒)

フルデンシャル投資顧問社長

ジョン・スターンズ(〒) データカード社前副社長

### ■日本

今井 正雄(〒)

小笠原 敏晶夫妻(〒)

尾関 雅則(〒) 鉄道総合技術研究所理事長

賀来 龍三郎

神谷 克郎(〒) TDK相談役

河合 三良(〒) 経済同友会副代表幹事兼専務理事

川上 哲郎夫妻(〒) 住友電気工業会長

杉野 昇夫妻 三菱総合研究所常務

住友 義輝夫妻(〒) 住友電気工業顧問・国際MIRA日本協会会長

豊永 恵哉 松下電器産業専務

中島 秀夫(〒) 鐘紡常任顧問

堀 義一 日産自動車副社長

松岡 紀雄 神奈川大学経営学部教授

横瀬 恭平(〒) 住友ゴム工業相談役

和佐 隆弘夫妻 日本経済新聞論説委員

■中国

朱 森林 広東省省長

黄 軍 広東省外事弁公室主任

鄭 国銳 広東省計画委員会副主任

伍 明光 広東省経済貿易委員会副主任

黄 挺 広東省経済体制改革副主任

陳 開枝 広州市副市長

厉 有為 深圳市市長

梁 広大 珠海市市長

陳 作民 汕頭市副市長

張 柏鑑 広東省社会発展研究中心副主任

曾 牧野 広東省社会科学学院副院長

## MRAワールドニュースマガジン

IT'S ABOUT TIME...

# CHANGE

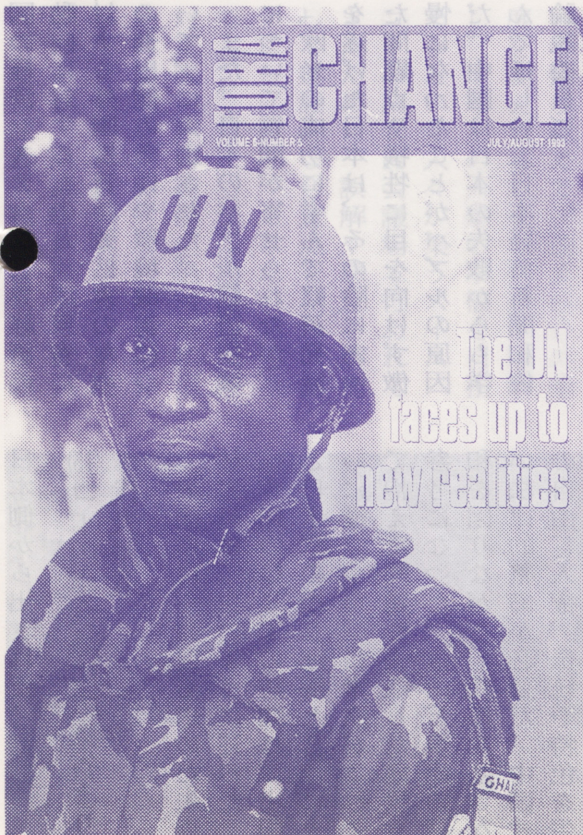
フォー・ア・チェンジ

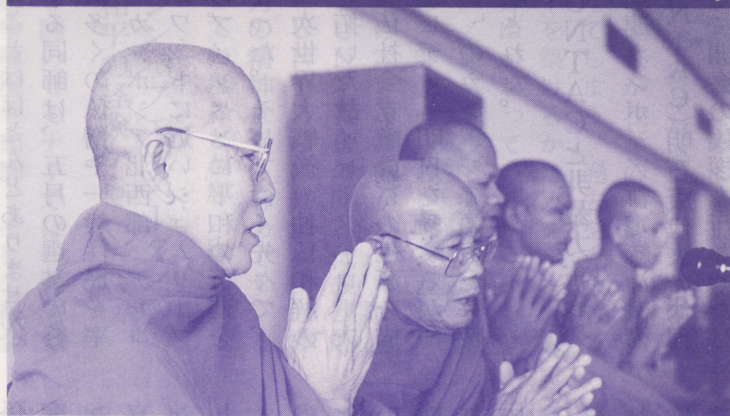
定期購読受付中

世界中で起こっている変革(チェンジ)とそれを担う人たちのイニシアチブを!

MRAワールドマガジン「フォー・ア・チェンジ」誌(英文年間8回発行)定期購読ご希望の方は住所、氏名、職業、年齢を明記の上、購読料(1年分=¥4,500 ※郵送料込み)を郵便振替(口座番号:東京8-38289)、又は現金書留にて下記の住所にお送り下されば、申込みを代行いたします。

〒113 東京都文京区千駄木4-13-4  
社団法人 国際MRA日本協会  
「フォー・ア・チェンジ」係





●開会の祈りを捧げる(左から)マハ・ゴサナング大僧正とテフ・ボン大僧正

### (1) 和平は信頼作りと善悪の判断の回復から

MRA国際セミナー「カンボジア和平のための信頼作り」は、去る三月二十六日〜二十七日の二日間にわたって、首都プノンペンにあるカンボジア最大のホテル「ホテル・カンボジアーナ」で開催された。選挙告示一週間前という忙しい時期でもあり、参加者が少ないのではという予

## MRA国際セミナー

# カンボジア和平のための信頼作り

(社)国際MRA日本協会専務理事  
藤田 幸久

想に反して、九つの政党代表、内外仏教界の代表、人権団体を含むカンボジアNGO、各国外交官の他、プノンペン大学の学生を中心とする約百名の青年など、様々な立場を代表する二百名以上の参加があった。

一九五四年のジュネーブ会議以来、各界各層のカンボジア人との交流を始めたMRAは、特に八四年以来、タイ・カンボジア国境の難民キャンプを幾度か

訪れ、民主主義や徳に関するセミナーを開催してきた。さらには、カンボジア各派の人々がスイスのコーや小田原など各国でのMRA国際会議に参加した他、フランス、オーストラリア、アメリカにおいても、同じようなセミナーやカンボジア青年のためのトレーニング・プログラムを開催してきた。

今回のプノンペンにおける国際セミナーは、和平と復興の土台となるカンボジア人相互の信頼作りの場を設けて欲しいという、これらのプログラムに参加した内外多くのカンボジア人の要請に応じて開かれたものである。

こうした経緯を冒頭で説明した私は、八四年にタイ・カンボジア国境で十人の仏教僧から「私たちは長年の戦乱で全てを失いました。国土も人命も仏教も……。そのなかで最も大きかったのは、何が正しく、何が間違っているかという善悪の判断です。是非この基本が私たちの手に戻るよう助けていただきたい」と、MRAの国際グループに要請があったことを紹介した。



●(右から)ティモシー・カーニー氏(UNTAC教育・情報部門代表)、ソン・サン氏(仏教自由民主党党首)、シソワット・シリラット殿下



●(右から)ラジモハン・ガンジー教授、ケイ・ブット・ラズマイ氏(シアヌーク殿下女婿)、チュム・ヴィトヤ博士(SNC事務局)

カンボジア内外で精力的に和平活動を続けているカンボジア仏教界の支柱マハ・ゴサナンダ師が開会の祈りを捧げた。師は昨年シアヌーク殿下より大僧正の位を授けられた。

「平和の創造には無私、無欲が基盤にならなければなりません。チームワークと協力も不可欠です。その道を知っているのは自分たちだけだ、と思いがっている限り、平和の創造に役立つことはほとんどありません」とする同師は、五月の選挙の終盤に多くの仏僧や一般住民を率いてカンボジア西北部、アンコールワットに近いシエムリープからプノンペンに平和の行進を行なった。そして行く先々で、第二次世界大戦後の独仏和解の道を拓いた故イレヌ・ロー夫人（仏社会党議員）の生涯を描いたビデオ「明日を愛するがゆえに」のカンボジア語版が毎晚上映された。

（2）UNTTACと非暴力主義

国連カンボジア暫定統治機構（UNTTAC）明石康代表の代理として開会の挨拶を行なったU

NTAC教育・情報部門のティモシー・カーニー代表は、「国民和解とは、究極的にはカンボジア国民自らが担うべきです。私たちに、長年の交渉を通して蒔かれた種を育てる任務があります。このセミナーは、国連NGOのMRAを仲立ちとして参加者による国民和解の推進を促す好機です」と述べた。

基調講演を行なった、インド独立の父マハトマ・ガンジーの孫ラジモハン・ガンジー政策研究所教授（前上院議員）は、インドが長年抱えている様々な対立とその原因に触れた上で、インドでの失敗例を教訓にしてほしいと次のように語った。

「歴史の間違いを正せというのは強要であることが多い。インドでは過去の認識や評価について全員が一致することは不可能に近い。仮に一致しても、それを今さら変えることはできない。過去は教訓を与えることはできても変わることはできない。もし答えを求めて過去を研究すれば、過去をよりよき未来を築くための我々の僕とすることができ、反対に、もし憎しみを

## MRA国際セミナー主な参加者

- 〈仏教界〉
  - マハ・ゴサナンダ大僧正
  - テフ・ボン大僧正
  - 〈UNTTAC〉
  - ティモシー・カーニー
  - 〈UNTTAC教育・情報部門代表、アメリカレジナルド・オースチン教授
  - 〈UNTTAC選挙部門代表、ジンハフエバジル・フェルナンド
  - 〈UNTTAC人権部門調査部長、スリランカレニー・パン
  - 〈UNTTAC通訳、ソティ・パン元副首相夫人、カンボジア
  - カシー・ノー
  - 〈UNTTAC通訳、人権活動家、カンボジアプノンペン政権
  - ミー・サメティ博士
  - キユー・カナリット
  - （首相府次官、後に暫定政府情報部長）
  - テアン・サボン将軍
  - （国家治安省次官）
  - 〈ラナリット派（旧シアヌーク派）
  - サム・レンシー
  - （最高国民評議会（SNCC）委員、後に暫定政府財政・経済相）
  - サム・ソムラ
  - （同夫人、後にカンボジア中央銀行副総裁）
  - シンワット・シリラット殿下
  - オル・コソラック
  - （後に制憲議会議員）
  - （元国連大使）
  - 〈ソン・サン派（仏教自由民主党）〉
  - ソン・サン
  - （最高国民評議会（SNCC）委員、元首相、後に制憲議会議長）
  - ソン・スーベール
  - （仏教自由民主党書記長、後に制憲議会議員）
  - タク・レン将軍
  - （後に暫定政府地方開発相）
  - ケット・スクン
  - （後に暫定政府婦人・青年・スポーツ相）
  - 他に自由民主党、クメール中立党、共和連立党、共和民主党など九つの政党代表者。
- 〈最高国民評議会（SNCC）〉
  - ケオフット・ニラスマイ（シアヌーク議長官房長）
  - チェム・ウイドヤ博士
  - （SNCC事務局員）
  - 〈外交官〉
  - トワイニング・アメリカ大使
  - バンタリ・インド大使
  - 日本大使館藤原参事官
  - ロシア大使館参事官
  - マレーシア大使館参事官
  - 他に現地NGO代表、人権団体代表、学生、教育関係者、ジャーナリスト等。
  - 〈MRA関係〉
  - ラジモハン・ガンジー
  - （政策研究所「CDDO」教授、マハトマガンジー孫、インド）
  - ジヨセフ・ラグー移動大使
  - アレック・スミス
  - （元シンパフエ国軍牧師、ジンハフエ）
  - アララン・グリフィス
  - （元首相特別アドバイザー、オーストラリア）
  - サレハ夫人
  - （高等教育推進協会会長、マレーシア）
  - チャールズ・ウイ
  - （元二一・マレーシア教育マネージャー、マレーシア）
  - パトリック・サンタマリア
  - （MRA専従、マレーシア）
  - ハリダス・ナヤ
  - （高等教育推進協会理事長、マレーシア）
  - デビッド・チャナー
  - （MRAフロダクション代表、イギリス）
  - アララン・テート
  - （MRAインドシナ担当理事、フランス）
  - サレム・ノー
  - （米ミネソタ州カンボジア人グループ代表、アメリカ）
  - ルイス・モリソン
  - （アメリカ）
  - ダンテ・カルマ
  - （スターズ・トラバル会長、フィリピン）

まき散らすために過去を暴きたれば、我々が過去の僕と化し、その過去が我々の子孫をも飲み込んでしまう。過去を克服して和平を築けるかはカンボジア人自身にかかっている」。

プノンペン中央にある公園には、非暴力主義を唱えたガンジーの大きな銅像が立っているが、UNTTACの明石代表が昨年、UNTTACはガンジーの非暴力の精神によるものです、と語っていたことが思い出された。

### (3) ジンバブエやスーダンの 和平の経験から

今回のセミナーでは、各国での紛争解決や和解、そして社会復興に活躍した人々の体験をカンボジアの人々に直接語ってもらうことに主眼を置いた。八〇年に、イアン・スミス首相による白人少数支配のローデシアは内戦を終結させて、黒人多数支配による多人種国家のジンバブエとして無血独立を果たした。首相の息子という特権的な生活に育ったアレック・スミスは父に対する反抗から、放蕩息子となり、麻薬にまで手を出した。

そして南アフリカの刑務所で勾留中にMRAを知る牧師に出会ったことがきっかけとなり、それまでの反抗を父に謝罪し、さらに黒人に対する白人の過ちを正し、人種間に和解をもたらすために立ち上がった。彼と後に暗殺された黒人牧師との友情が、ジンバブエと平和への大きな力となった。

独立を決める選挙戦の開票前夜、黒人による復讐を怖れた白人がクーデターを企てたが、アレックはスミス首相と黒人のムガベ現首相とを引き合わせ、両指導者の和解によってこれを未然に防ぎ和平が実現した。

和平の秘訣としてアレックは、カンボジア人に次のように語った。

「父イアン・スミスは、それまでの特権を失うことを覚悟していた。また、黒人三派の方も、一派だけが一人勝ちは出来ないことを認識していた。和平が成就するには全ての派に妥協の姿勢があることが必要だ。和平が成功すれば全ての派が勝者になるが、和平が失敗すれば全員が敗者になる」。

### プノンペン政権

#### ファン・セン首相のメッセーヂ

「この重大な時期に、MRAがこのセミナーを開催していただくことに深く感謝いたします。権力欲、憎しみ、我欲、汚職、そして国のプライドが今日の悲劇を招きました。我々カンボジア国(SOC)では、一九七八年十一月二日以来、妥協と和解による政策を成功に導く努力を続けて参りました。その最善の成果は実を結んでいないものの、客観的に見て状況は好転し、和解に向かっていると思われます。このセミナーは、カンボジアの悲劇の暗闇に光をもたらすものと強く信じるものです」。

### UNTTAC代表

#### 明石康氏の書簡から

「今日のカンボジアにふさわしく、時宜を得た、今回のセミナーの目的やアプローチに私は大いに勇気づけられております。平和プロセスにおける非暴力の推進こそ、この局面に極めて重要であります。MRAの貴重な体験と、これまで世界中で発揮された精神的指導性にとカンボジア国民があやかるとは、戦乱で荒廃したこの地域に和平と和解をもたらす上で、大きく役立つことと思えます」。

同じジンバブエ出身のUNTTAC選挙部門代表レジナルド・オースチン教授も、同じ国連主導による和平の具体的な歩みを語った。

一方、スーダンで五五年から七二年まで続いた内戦終結に大きな役割を果たした南スーダン解放運動のゲリラ軍総司令官で

後に副大統領や国連大使を務めたジョセフ・ラグー將軍は、飛行機事故に遭った敵方の一般住民を助けたことから敵方との対話が生まれ、和平に至った経過を感動的に語った。

いずれの場合も、当事者間の信頼作りが和平の基盤であることが強調された。

#### (4) 初めて発信するカンボジア人

恐らく国際会議には初めて参加した人が多いと思われるカンボジアの参加者たちのほとんどが、熱心にメモをとっていた。ブノンペン政権国家治安省の高官が持ち込んだテープレコーダーや報道陣のカメラの前で、最初は好奇心と緊張感が交錯した様子うかがえた。しかし、具体的な体談やユーモアを交えた外国人の話、そしてマレーシア人グループのコーラスなどで次第に雰囲気や和やんでゆく中で、話にならず人や笑顔を見せる人が頻繁に見られるようになっていった。

各セッションの最後に司会者が質問を受け付けると、初めこそ互いに顔を見合わせていたカンボジア人も、次々と前に出て発言した。質問のほとんどが、ジンバブエ、スーダン、インドなどで対立する派同士の対話のきっかけがどうやって始まったか？、誰が最初のステップを踏み出したのか？、合意が崩れなくなったことではないのか？、また崩れそうになった時、どう対処したのか？といった具体的に切実なものであった。そして自分たちには何が出来るのかという質問が引き続きなされた。今までカンボジアには見られなかった未来指向と自覚とが熱く感じられた。

また人権侵害や対立する党に対する政治テロの対応に関して、UNTAAC人権部門のパジルフエルナンド調査部長に突っ込んだ質問が寄せられた。今までこうしたことを問う質うにも、そういう場が存在しなかったのだろう。発言が出来る、質問が出来る。しかもそれに耳を傾けて答えてくれる人がいるということを初めて体験する喜びと快感をカンボジア人が堪能しているように見えた。何十年にもわたり、自分の意志を表現し、反対意見を述べ、疑問を呈することをお許されず、脅され、抑制されてきたことからの解放への願いが身体全体からにじみ出していた。

ブノンペン大学の学生、それまで発言の場がなかった小政党の代表、海外から帰国したカンボジア人、カンボジア人のNGO



●サム・レンシー氏 (SNC委員、後に暫定国民政府財政・経済相)



●レニー・パン氏

また人権侵害や対立する党に対する政治テロの対応に関して、UNTAAC人権部門のパジルフエルナンド調査部長に突っ込んだ質問が寄せられた。今までこうしたことを問う質うにも、そういう場が存在しなかったのだろう。発言が出来る、質問が出来る。しかもそれに耳を傾けて答えてくれる人がいるということを初めて体験する喜びと快感をカンボジア人が堪能しているように見えた。何十年にもわたり、自分の意志を表現し、反対意見を述べ、疑問を呈することをお許されず、脅され、抑制されてきたことからの解放への願いが身体全体からにじみ出していた。

ブノンペン大学の学生、それまで発言の場がなかった小政党の代表、海外から帰国したカンボジア人、カンボジア人のNGO



●ブノンペン政権のデン・サボン将軍 (中、国家治安省次官) とミー・サメディ博士 (左、厚生次官)



●ジンバブエ和平のディスカッション (左から) アレック・スマイス氏、レジナルド・オースチン教授、チーフ・クス氏 (通訳)、アラン・グリフィス氏



人権団体代表の他に、世俗的な活動には関与しないとされてきた若手の僧侶までが前に出てマイクを握った。その後行われた総選挙における高い投票率を予測するような光景であった。

### (5) 国民和解委員会の結成

二日目の午後のセッションの司会をした私は、最後のセッションはカンボジア人が進行し、カンボジア人同士で自由に会議を進めてはどうかと提案した。

そして、ブノンペン政権認知の大僧正であるテップ・ボン師、ラナリット派(旧シアヌーク派)のサム・レンシーSNC(最高国民評議会)委員(その後、暫定国民政府の財政・経済大臣に就任)、レニー・パン夫人(UNTAC通訳)他が壇上に登った。

カンボジア側で今回のセミナー開催の中心的役割を果たしたレニー・パン夫人は、ロン・ノル政権で副首相兼教育相を務めたソテー・パン氏の未亡人である。数少ない清廉な指導者として知られた同氏は七五年、ロン・ノル首相他が脱出した後も死を覚悟してブノンペンに残り、ポ

ル・ポト派に殺された。ポル・ポト派を恨んでアメリカで生活していた彼女は、八六年にスミス・コーで前述のフランスのイレヌ・ロー夫人に面会した。

ドイツを許した彼女の経験に打たれたパン夫人は、ポル・ポト派を許す決心をしてタイ・カンボジア国境のポル・ポト派難民キャンプに向かった。恐る恐る聞き入る難民の前で、  
「今まで私は、あなた方一人ひとりを憎んできました。八つ裂きにして切り刻んでやりたいと思ってきました。しかし、その憎しみはカンボジアの和平に決して役に立たないことが分かりました。私はあなた方を許すことにしました。皆さんの中でも、家族を失った人や、何も知らずに苦しんだ人も多いと思います。これからは一緒にカンボジアのために努力を傾けましょう」と呼びかけた。

涙を流し始める人や、周りに気兼ねしリーダーの目を恐れながらも、前に歩み出て握手を求める人も出て、彼女は初めてポル・ポト派一般住民の心に触れることができたという。

これを機に、彼は党派を越えた教育とモラルの復興を目指したNGO「カンボジア子供教育基金」を創設したが、昨年からUNTACの通訳として和平に貢献している。

こうした体験をカンボジア人が披露し合ううちに、会議も盛り上がり、真の和平を築くために、カンボジア人自身が動きを起こそうという意見が相次いだ。そして、この国際セミナー後も、参加者が国民和解委員会(仮称)を結成し、毎週日曜日に集まる

ことになった。

総選挙後も多くの困難が待ち受けているが、こうした「国民の、国民による、国民のための和解と復興」こそカンボジアが最も必要としているものである。

最後に、このセミナー開催にご協力をいただいたワールドビジョン・インターナショナル、財団法人MRAハウス、川口昌宏氏、二宮秀夫氏の各位にこの紙面をお借りして深い感謝を申し上げます。

## 最新刊

MRA体験記

# 出逢い

NO.4

好評頒布中!

47ページ頒価450円



国際MRA日本協会

お申し込みはMRA事務局へどうぞ



## 報告

# インド、青年スタディー コースに参加して

飯島 亜由子

日本大学4年生

昨年春、インドでイスラム教徒とヒンズー教徒の間で紛争が起きた時、とてもショックを受けました。両親も心配し、危険だからインドへ行ってはいけな  
いと最初は反対されました。しかし、私はどうしてもインドで行われる青年スタディーコースに参加したかったのです。というのは、私は三年前に台湾で行われたアジア・太平洋青年キャンプに参加しましたが、その時、第二次世界大戦の時の日本兵の

行為に対して不信を抱き、未だに日本人を嫌っている人たちがいることを知りました。その時まで、私は史実は知っていても相手の国の人たちの心情までは理解してはいなかったのです。これからの日本は、東南アジアの人たちの文化や歴史などを踏まえた上で、お互いに理解し、協力していかねなければいけない  
と思った私は、発展途上国の援助機関で働く道を選びました。この  
から働くことになる私

の職場は、発展途上国の経済調査等をしているところなので、先ず自分がインドに行つて自分の目で実情を知り、また様々な国の参加者たちと直接話をして、その国の情勢や考え方を聞きたいと思つていたのでした。

私は二月の半ばから約一ヶ月間インドに滞在しました。学校の試験の都合上、全プログラムに参加することは出来ませんでした。そのため、私がインドに着いた時は、スタディーコースの前半がほとんど終わろうとしているところでした。ほとんどの参加者が帰国してしまつて、コースの活気も今や消えかけていたので、このままでは私は何をしにインドに来たのか分からなくなると、内心焦りましたが、ジャムシェドプールという都市への旅行で、本当にインドに来たのだなと感ぜられる大変有意義な体験をすることが出来ました。  
M R A インド研修センター、アジアプラトーがあるパンチガニーからボンベイまでのバスが時刻表通りに走ってくれず、予定していた電車で遅れそう

になったので運転手に掛け合いました。全然動こうとしませませんでした。そのため、途中でタクシーをつかまえてボンベイ駅までやつと辿り着き、何とか間に合いましたがとてもスリルのある出来事でした。  
「チャイ！ チャイ！」と紅茶売りが大声で叫びながら頻繁に行きかう電車の中では、歌を聞かせてお金をもらおう商売の人や私たちのお昼の食べ残しを待っている少女、お金をくれと手を差し伸べる体の不自由な老人など、見るもの全てが私に



●スタディーコース後半の参加者全員で

とって衝撃的でした。貧富の差が激しいと聞いてはいましたが、これ程までとは思っていませんでした。車中で一泊した後、顔も体も埃だらけで、到着時間に遅れること四時間で目的の駅に着きました。

ジャムシエドプールではホームステイをさせてもらったのですが、たまたま一緒になったミャンマー(旧ビルマ)の青年から、私とは余りにも違った境遇の中で生きている彼の心境を聞くことが出来ました。

一九八八年の軍事クーデターの際にもゼネストの決行を初め、彼ら学生は「民主化」を訴えて政府軍と戦いました。インド、タイ、中国の三ヶ国との国境地

帯で政軍と戦ったそうです。十日間ジャングルの途中で、食べ物も着るものもなく過ごしたと言っていました。今でもタイ、ミャンマーの国境地帯で銃火を交えているのです。彼は二十六才ですが、三十才まではミャンマーの民主化のために戦い続けると言っていました。「あなたにとって人生とは何ですか」と質問され、やっとな就職が決まりこれからどうなるだろうと思っていた私は答えられませんでした。「自分は結婚しようと思っても仕事に就けないので、お金を稼げない。アメリカやオーストラリアの国籍を取得した学生もいるが、自分はミャンマーが好きで祖国を捨てたくないから戦つて

いる。でも、本当に和に暮らしたいと思っている」と彼は語りました。またある日、ミャンマーの実情を撮ったビデオを見せてくれました。街中で学生たちと軍隊が戦っている場面を私は見えないなかつたのですが、彼や他の学生たちは直視していました。彼ららもつとむごい場面を実際に体験しているのでしょうか。私には想像さえ出来ないような彼らの世界なのです。私と同じ時代の若者たちが、たまたまこの時代にミャンマーに生まれ育つたために、こんなにも違った境遇に置かれるなんて。彼は私に言いました。「これが僕の人生さ」と。

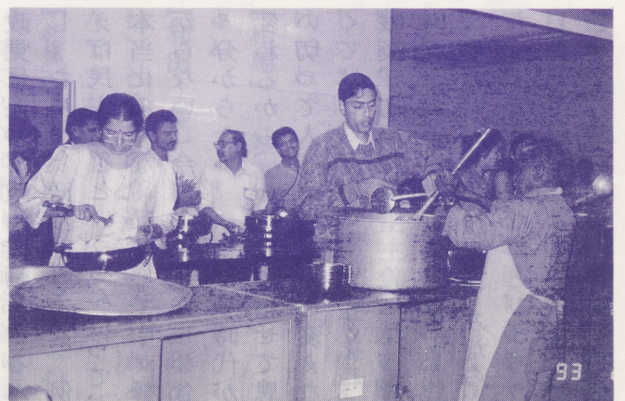
アメリカや日本は、外交政策上はミャンマー政府に反対しているものの、沢山の会社が経済進出しているのです。間接的にそのお金が軍事政権の資金になっているのです。特に日本は経済力が強いので、ミャンマー政府に対しての凄い影響力を持っています。私は彼らと一緒に戦うことは出来ないけれど、日本人の一人として何か協力したい



●各国文化の夕べで韓国の参加者とアリランとさくらと一緒に歌った

と。またある日、ミャンマーの実情を撮ったビデオを見せてくれました。街中で学生たちと軍隊が戦っている場面を私は見えないなかつたのですが、彼や他の学生たちは直視していました。彼ららもつとむごい場面を実際に体験しているのでしょうか。私には想像さえ出来ないような彼らの世界なのです。私と同じ時代の若者たちが、たまたまこの時代にミャンマーに生まれ育つたために、こんなにも違った境遇に置かれるなんて。彼は私に言いました。「これが僕の人生さ」と。

と。またある日、ミャンマーの実情を撮ったビデオを見せてくれました。街中で学生たちと軍隊が戦っている場面を私は見えないなかつたのですが、彼や他の学生たちは直視していました。彼ららもつとむごい場面を実際に体験しているのでしょうか。私には想像さえ出来ないような彼らの世界なのです。私と同じ時代の若者たちが、たまたまこの時代にミャンマーに生まれ育つたために、こんなにも違った境遇に置かれるなんて。彼は私に言いました。「これが僕の人生さ」と。



●食事の支度や皿洗いも参加者たちが交替でする

MRA副会長  
相馬雪香さん、5月10日  
テレビ朝日「ニュースステーション」に出演、政治改革への熱き想いを語る

政治の要諦は正直にあり



平成5年5月10日(月)テレビ朝日ニュースステーションより( )は編集部注

我々にもではなく、我々に責任がある…

【久米 宏】今夜は相馬雪香さんにお越しいただいております。ようこそ、お越し下さいました。改めてご紹介しますと、相馬雪香さんは尾崎行雄さんの三女にあたられます。女性の年齢を申し上げるのは大変心苦しいんですが…。

【相馬 雪香】どうぞ、ご遠慮なく。(笑)

【久米】一九一二年のお生まれです。たまたま調べてみましたら、一九一二年というのはお父様の尾崎さんが東京市長をお辞

めになる一年前で、ワシントンに桜を贈っている年なんです。ね。

【相馬】二度目に贈った年なんです。

【久米】あのポトマックに咲いた桜と同じ年齢と申し上げてよろしいでしょうか。

【相馬】結構です(笑)。

【久米】今の(相馬さんの)政治改革運動を紹介した)VTRの中で、何回も相馬雪香さんがおっしゃっているのは、有権者の我々にも、つまり、政治家を選ぶ我々にも責任が沢山あるんだ、ということですね。

【相馬】我々にも、じゃなくて、我々です。すよね。言葉少し気

を付けて。

【久米】おはい(笑)。我々に責任があると、もう少し分かり易くお話ししていただけると、何ですか、我々の責任とは？

【相馬】やはりこの議会制民主政治というのは、私たちが政治家を選ぶんですからね。選んだ人が悪いことをすれば、それは選んだ人の責任じゃないでしょうか。

【久米】分かります(笑)。

【相馬】そうかしら(笑)。案外、みんな、分かんないみたいですね。

政治の基本を子供の時から教えるべき

【久米】国会議員に選ばれた人間が悪いことをしたんだしたら、誰が悪いかというと、その国会議員を選んだ人間が悪い。

【相馬】そう、そう、そう。だから、(政治家は)自分の鏡に映った顔でしょう。鏡に映った顔がイヤだから変えるわけにはいかないけど、政治家の場合は変えられますね。でも、変えようたって、いいの(笑)出てこなけ

れば選ぶようがないですね。だから、どこかで政治家を育ててこなくてはいけません。それこそ専ら(尾崎行雄)は、学校の時から政治というもののあり方を子供にもっと教えるべきだということを言っておりますね。

【久米】(専らとは)お父さまの尾崎行雄さんのことです。学校の頃から政治のことを子供に教えないといけない、と。

【相馬】教えないといけない。今みたいに教育に政治が入っちゃいけないなんて逆です。政治に入ってから政治活動をするんじゃない。政治の基本を、例えば民主主義というもんだって、本当にみんな、私だって中々分らない、今だって勉強しなきゃ分らない。やっぱり時代が変わるから、それに合わせて思い切って人間の考え方も変えなくてはいけませんよ。戦後、初めて民主主義になった時、「本当に自由だから何やっていいんだ」と始めてみたら、ちよつとうまくないとびっくりしたっていう話よく聞きますでしょ？

## 英国の政治腐敗防止法の前 に精神革命あり

【久米】あの、少し具体的にお話を伺いしようと思うんですけどね、今、まず、カネの問題をきちんとしてはいけないと、日本の政治の中では、そのためには、イギリスが百年前にやった政治腐敗防止法のようなものを、まず、作るべきだ、選挙などはその次だ、政党助成法などはその次の次だ、という議論があつて、まず政治家のカネをきれいに。で、相馬さんのお書きになった、あるいはお話しになった文章を拝見しますと、百年前の英国の話ですが、「あれは政治腐敗防止法ができたからイギリスの政治がきれいになったとみんなは思っているけど、それは間違いで、実は政治腐敗防止法ができるその前に、イギリス人たちは自分たちの精神を変えた。そつちが重要なんだ」と、これはどういうことなんでしょうか。

【相馬】私はあんまり詳しくはないんですけど、英国には精神革命が起こった。それはウェズレー（キリスト教メソジスト派の創始者）なんかが始めて、そしてちょうど一八八三年ですよね、政治腐敗防止法を通つたのは。一八八三年頃に、先ず英国はその頃は奴隷は使っていないけれども、奴隷をアメリカに送る貿易でお金儲けてた。そのことを悪いと誰も思っていないか、たんです。ただ、それは道徳的に間違っているというところを感じ出した人がいたのね。それはウイルバ・フォースという国会議員ですよ。彼は若いピット（二十四才で首相になつたイギリスの政治家）と並び賞されるような、歌を歌わせてもいい、演説をさせてもいい、何をさせてもいい、次の総理になるのではないかと思われていた男です。それが、自分が正しい（と思う）ことのために生きると、それまでは自分の名声のため、自分がなになるという野心のために生きてたのが、そうじやなくって自分は神のもとに正しいことをするために生きるという非常な精神的な革命を行つた男なんです。結局英国が奴隷貿易を廃止する法律を通すのに確か三十年かかつて、その

間には落選も二度いしている、だけど彼が最後に病院で死ぬ前にその法案を通つたのを聞いた。彼はその一人なんですけれども、その他に労働界にもあり、あるいは貴族院の中にもあり、いろいろなところに、それまでの英国の社会ってのは非常に乱れていた。だからその風紀を変えていかなければいけない、精神を変えていかなければいけない、そういう土台の中にあつたんじゃないですか。

面白いのは、このあいだ私がある本を読んでいたら、「それまで非常に貧しかった英国が産業革命などで少しずつ大きくなつてくる。そうすると衣食足つて礼節を知るようになった」と書いてあつたんです。おかしいでしょう。日本なんか、とうに礼節を知つてもよさそうじゃない。

### 政治の要諦は正直にあり

【久米】今のお話はVTRの話の続きなんです。VTRの中では、「学生たちはカンニングをしていないか、大人は正しく道路を渡っているか、つまり我々日本人はきちんとした仕方でお

金を稼いでいるか、男女交際はちゃんとしたルールに乗っ取つてきちんと相手を尊重してやっているか、つまり、そういうことが全部できなければ、いい政治家は生まれえないという、大変難しいお話をなさっているんですけどね。

【相馬】基本的（なこと）ですよ。ね。

【和田 俊】やっぱり、（政治は）社会そのもののあらわれなんです。ね。

【相馬】社会そのものですよ。それでいつの間にか政治家に正直を求めるのは八百屋で魚を買うようなものだ、誰かが言つたんです。でもそうじやなくって。

【和田】それは間違つてますね。

【相馬】例えばアメリカ建国のジェファソンは、政治の要諦は正直にありと言つてるんですよ。

【久米】話が大変なことになつちやつたんで。それじゃとても、我々先ず生き方変えなきゃ日本の政治は変えられないんだと。

【相馬】そりゃそうよ。

【久米】そうなんです。そう

なってくるのとボクたちは批判しているだけじゃなくて、自らの生き方を律していかないと、日本にはきちんとした政治家は生まれにくいという。

【相馬】だから、少しでもいいから、いい方に。何も全部百パーセントでいったって、無理でしように。

### 有権者の心得二ヶ条

【久米】大変難しいお話なんです、もうちょっと具体的に救われたいと思いますんで。(笑)これがいつもシンポジウムでおっしゃっている有権者の心得三ヶ条、

一、政治家に私事(許認可、入学、就職等)を頼まないこと。  
二、出したい人は手弁当で協力すること。  
三、政策で選び自己の利害で選ばぬこと

まあ今の政治家は一に忙殺されているんですよね。入学、就職なんてとんでもない話なんです、許認可になると、逆に政治家がこれの中に入っ込んでいくケースもありますんで。

【相馬】それは構造的な問題で

すよね。

【久米】二は例えば、小宮悦子を政治家に何とか、あれだけの人間はいないからと思つたら、周りの人たちは小宮悦子からカネをもらうのではなくて、手弁当で彼女を押し立ててやらなくてはいけない。ここにカネが介在したら、ろくなことはない。

【相馬】地方議員でそういうのが少しずつ始まっているようね。

【久米】地方レベルで。国会議員で何とかこれを。

【相馬】国会議員はまだ聞いてないけど。

【久米】やっぱりどうしてもこれは秘書を雇わなければいけないし、やっぱりボランティアはいませんか、国会議員はなかなか。

【相馬】まあ、どうかしら、今度はお出でくるんじゃないですか、ねえ。

### 勉強は一生かけてするもの

【久米】大変難しいお話をしていたいたんですが、テレビでおっしゃりたいことがあれば、言っていただけませんか。こうしろ。

【相馬】こうしろってのは、やっぱり人のことは、その人その人が自分の心に聞いてやるしかしようがない。

【久米】一人ひとりが自分の心に。ただ、最近の若い人はあまり勉強してないなと雪香さんはお思ひになつてる?

【相馬】勉強とは何かというところですけどね。勉強は我々よりずつとしているんじゃないですか。難しい本も読むし。だけど、どう人間が生きなきゃいけないかってことは、あまり考えていないかも知れないわね。どうかしら。

【久米】悦ちゃん。反論すれば?

【小宮 悦子】今のお話を聞いて私はもう感動して。勉強はして

いるかも知れないけど、人生について考えたりするヒマがないのかも知れませんか。

【相馬】私たちの頃は、大学に行きたくても入れていただけなかったからね。その代わり、勉強なんでものは学校だけでするものじゃなくて、一生かかってするものだと言われましたから、いまだにコツコツ。

【久米】お孫さんはブーバと呼んでらっしゃるんですって。

【相馬】(笑)

【久米】ブーブー言う婆あだから(一同爆笑)。これだけブーブー言われれば、お孫さんがとっても羨ましいなと思つた次第です。

相馬雪香さんにお話を伺いました。有難うございました。

### テレビ出演を振り返って……………相馬雪香

今回のテレビ出演のおかげで、一般の人の心にひそんでいる「自分にも責任がある」という思いに触れられたことを感謝しています。地下鉄でも、道を歩いているでも呼び止められ、励まされます。「今まで政治に関心を持たなかったが、責任を感じた」、「胸に詰まっていたしこりが解けた思い」、「人間として正義感を持ち続けることが決して青くさいことではないということを確認した」、「間違つた社会通念を変えるのも自分の責任」等のお手紙も頂いています。

『政治浄化は自己浄化から』

# クリーンアップ・ジャパン

# クリーンアップ・ユアセルフ

## ■総選挙で選挙浄化運動を展開

政治浄化と政治改革に寄せる国民の強い期待の中で行われたこの度の総選挙に関連して、全国の前立候補予定者を対象にしたアンケート調査(1)と、奈良選挙区における選挙民の署名活動(2)が行われた。

これは、昨年十二月の台湾の立法院(国会)選挙で行われ成果を上げた国際MRA台湾協会を中心とする選挙浄化運動からヒントを得て行われたもので、立候補予定者に対しては供応や買収はしないかと、厳しく問いかける一方、有権者には、物や金やサービスを候補者にたからない、という志を求めたものである。選挙浄化を候補者と選挙民の両方から始めようという目的で、MRAの本年度の年間テーマである「クリーンアップ・ジャパン、クリーンアップ・ユア

セルフ、キャンペーン」、つまり「政治浄化は自己浄化から」の実践の一つである。今回は急な解散で準備不足のままでのイニシアチブだったが、こうした動きは今後も息長く続けていきたい。アンケート調査の結果は次号の「MRA J ニュース」で報告したい。

(1)アンケート調査(抜粋)

— 政治浄化の運動を展開してまいりました団体が共同して、この度の総選挙に向けて、解散まで現職でありました衆議院議員立候補予定者の方々に、総選挙での政治浄化の意志について、緊急のアンケート調査を実施することになりました。このアンケートの結果はマスコミ等に公表し、総選挙の候補者選択の資

料となるよう提供いたします。また、残念ながらアンケートにお答えいただけなかった立候補

予定者のお名前も、同時に公表させていただきます。末筆ながら、選挙での御健闘をお祈り申し上げます。

相馬雪香(財)尾崎行雄記念財団「より良き民主政治の実現を目指す会」発起人

藤田幸久(社)国際MRA日本協会専務理事  
尾崎行雄記念財団寄付「きれいな選挙と政治を考える会」

### 政治浄化緊急アンケート設問

(問1)あなたは、今回の総選挙において、必ず法定選挙費用を守りますか。(日本、中国)

(問5)あなたは、届け出のないヤミ献金が発覚した場合や、政治資金規制法に違反した場合、議員本人の公民権停止について賛成ですか。

(問2)あなたは、今回の総選挙において、有権者に対して買収、供応をしないことを公約できますか。(日本、中国)

以上の各質問に、1、はい、2、いいえ、3、答えられないの三つで答えてもらった。

(問3)あなたは、今回の総選挙において、運動員が公職選挙法に違反して、罪を問われた場合、候補者と

(2)奈良選挙区署名活動「政治浄化を選挙民の手で！」

— 皆さんの意志と行動が奈良をそして日本を変える —

してその責任を負いますか。

奈良選挙浄化運動趣意書

今回の総選挙は、私たちが住む奈良県にとつても、日本にとつても、政治を浄化し、新しい政治と社会を生み出す絶好のチャンスです。そして、真の民主主義を私たち選挙民自身の手で作り出せるかどうかの歴史的岐路に立たされています。

国会では与党も野党も、本物も二セ者も一様に政治改革を叫び、様々な新勢力（新党）の出現で、政権交替の可能性も高まってきました。一見新しい流れができ、新党の選択肢も広がったように見えますが、その流れを本物にするのは私たち選挙民の役割です。

「腐った卵から良いオムレツはできない」と言いますが、良い政治家を送り出さない限り政界再編も無意味です。

「選挙民以上の政治家は出現しない」と言いますが、これまで選挙民が自分の便宜や利益を政治家に求めたり、政治家に物やカネやサービスでつられたために、選挙民としての主権や強い立場を候補者に売り渡してしまつたと言えます。選挙民が自ら

のモラルを正し、自らの基準で候補者を選ぶ意思表示をする時に、数年に一回の主権者としての権利を行使できます。この強い意思を候補者に示そうではありませんか。

◎有権者5つの志

一、私は、候補者（政治家）から、物やカネやサービスを受けません。

一、私は、候補者（政治家）に飲食の求めなしを求め、受けたりしません。

一、私は、就職や進学等の私事や、職務上の便宜を候補者（政治家）に頼みません。

一、私は、所属団体、職場による依頼だけで候補者を選ぶことはしません。

一、私は、自らの目と耳で候補者の理念、政策、清潔度を判断し、自らの良心に従つて日本のためにふさわしい候補者を選びます。

一九九三年の主な活動予定（国内・海外）

一月

●第十九回青年スタディーコース（インド）

二月

●第十八回通常総会及び文化講演会

●ラテンアメリカ会議（ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン）

三月

●ブノンペン国際セミナー（カンボジア）

四月

●コー円卓会議中間会議（日本、中国）

五月

●イリノイ国際コミュニケーション・フォーラム（アメリカ）

六月

●リッチモンド国際都市問題会議（アメリカ）

●汎アフリカ会議（カメルーン）

七月～八月

●ヨーロッパ青年キャンプ（ポーランド）

●第四十七回コー世界大会（スイス）

●第四回アジア・太平洋ユースキャンプ（APCC）（香港、中国）

十月

●国際チーム連絡協議会議

●第十六回関西秋季大会（日本）

●MRA発足五十五周年記念日本キャンペーン（日本）

十一月

●九州MRA協励会第二十三次韓国視察団派遣（日本）

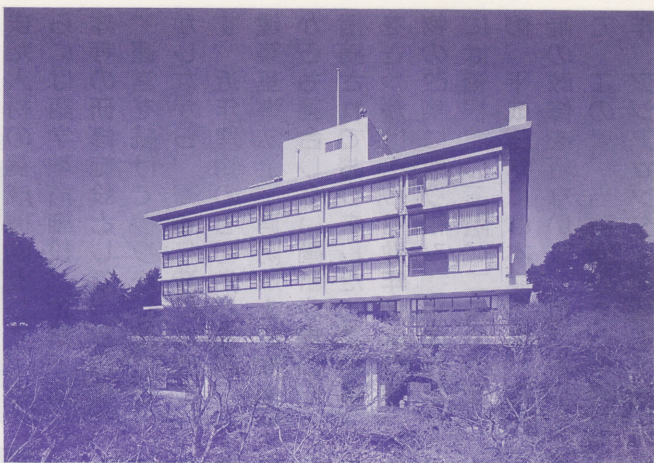
十二月

●第十九回通常総会及び文化講演会（日本）

※国内ではこの他にも各種講演会、月例会（関東・関西）、婦人会、コー円卓会議日本委員開催いたします。



◆



IHMRAアジアセンターが  
アジアセンター  
**ODAWARA**  
として

4月1日新たにオープン

財MRAハウス事務理事兼アジアセンター  
ODAWARA所長



中山 啓介

ここ数年世界は、大きくパラダイムの転換を経験しておりま  
す。一九八九年のベルリンの壁  
崩壊に象徴される冷戦構造の崩  
壊、噴出する民族間、宗教間の  
紛争、地球規模での環境問題、  
パブル経済の崩壊と深刻化する  
通商摩擦、政治の混迷等々。  
◆ 迫り来る世紀末と二十一世紀  
の到来を間近に控え、これら全  
ての課題が私たち一人ひとりの  
在り方と私たちの属する家庭、  
地域社会、企業、団体、国家の

在り方に一つの課題を提起して  
おります。人は変わりうるのか、  
企業は変わりうるのか、革新は  
ありうるのか、ということ。  
◆ ビジネスコンサルタントの野  
口吉昭氏は、その著「コンサル  
ティングマインド」の中で、「自  
分自身の再構築と企業経営にお  
ける新しい価値創造力を今、時  
代が求めている。企業変革を起  
こすには、優れた武器と、それ  
を使いこなす技、そして心が必  
要だ」。そして、それは、「革新  
しようとする意志」と『革新し

てどのようになるか』(している  
のかの高い志)の二つの条件が  
揃えば、企業人も瞬時にして変  
わりうる」と、述べておられま  
す。新生アジアセンターとその  
経営に直接携わる私たちも、日々  
その必要性を痛感すると共にこ  
の事を経験させられております。

◆

ご存じの方も多いことかと思  
われますが、当センターは、一  
九六二年十月、「MRAアジアセ  
ンター」として、MRA精神に  
基づいて、人間性の変革を通じ  
て人類の平和と繁栄を実現する  
ための訓練施設として、当時、  
スイスのコー、アメリカミシガ  
ン州のマキノ島に次ぐ三番目の  
施設として開設されました。元  
閑院宮様の敷地を譲り受けた小  
田原市城山の高台は、相模湾の  
全容はもとより、三浦、房総半  
島、そして大島、伊豆半島から、  
北に箱根連山を望む東海道随一  
の景勝の地にあります。設立に  
あたっては、国の内外から多く  
の方々の善意と真心が寄せられ  
ました。全国各地から寄せられ  
たおおぜいの人々の寄付を初め、  
オーストラリアやニュージーラ



●開会式で挨拶する当時の池田勇人首相(左)



●1962年10月に新しい小田原MRAアジアセンターで開かれたMAR世界大会には41ヶ国から2130人が参加した

ンドからは家具類や毛布が、ドイツを初めとするヨーロッパ各国からは最新鋭の皿洗機や、36ミリの映写機などが寄贈されました。また、寄贈された数々の調度品の中には、当時のゴ・ジンジエム南ベトナム大統領から贈られた漆塗りの箆筒、タイの国鉄総裁から十河元国鉄総裁に贈られた一对の象牙などもあります。

#### ◇ 当センターは、成立以来その

趣旨に則った国際会議場として、また人材の養成機関として、さらには語学教育施設、企業、団体等の研修施設として、今日まで運営を続けて参りました。しかしながら、寄る年波には勝てず、近年建物の老朽化が進み、建築基準法上、消防法上の観点からも適さない箇所が幾つか指摘されておりました。この事をきっかけとして数年前より建物の改築に取り組み、平成元年には箱根館の三階、二階分の改修、平成三年には本館五階、四階の改修を行いました。そして、この度、当財団設立四十周年、アジアセンター開設三十周年の節目の年にあたる去年から今年にかけて、本館三階、一階、一階と地下一階および箱根館の一階と地下一階並びにメインホールなどの大改修を実施しました。

改修資金も相当の金額に上りましたが、幸いその手当てもつき、特に今回の改修工事にあたっては、天の時と人の和を得て、センターの立地する地の利が最大限に蘇って参りました。建物の持つ独特の風格を活かしつつ、現代的建物としてこの度見事に生まれ変わりました。これはまさに神のはからいを感じさせるものでした。私どもは建物の改修に合わせ、経営面の改革にも取り組み、この四月一日より名前も新たに、「アジアセンターODAWARA」としてスタート致しました。その思いは、従来センターは小田原の市民の方々には必ずしも自由に開かれては来なかったということでありま

す。この点を改めると共に、私どもはアジアセンターの持つ可能性を最大限に引き出し、従来よりの首都圏に近い国際会議場、**ODAWARA**の研修会場、外国語の

研修施設としてはもちろんのこと、今後は地元小田原市の方々にも自由に開かれた施設として、ゲストハウスまたは文化センターとして、広くご愛用いただけよう運営して参る所存です。さらにここを発信基地として、今進められている全国各地域における国際化の活動とアジアのNGOの活動が交流、連携を深めるための一つの拠点として機能するよう、運営に心掛けて参りたいと念願しております。



●新されたエントランスホール

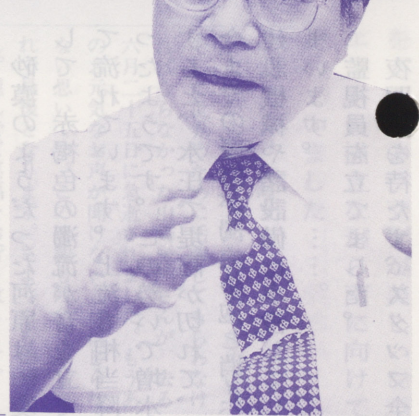
ていくためには、それに相応しい精神性、世界性、未来性を具現化していかなければなりません。それを永続させるものは採算性でありませぬ。私たちは、人々との出会いの中に、日々そういうものを生み出し、その輪が広く大きく大陸的、地球的なものに成長し、結ばれていくよう、自らも変革を重ねつつ成長していきたいとスタッフ共々念じております。



●客室も完全なホテルスタイルに



## 山崎房一の あなたに 百点満点 最終回 「リーダーシップ… 体験から学んだこと」



き合わせるように戸ぐらいでマララ部落を作っていました。その壁という壁には、牛糞が丸いセンベイのように貼り付けてありました。

### 雨期に入ると急変する天候

このマララ・ダムに巨大水門を八十八門据え付けるため、日本から私を含めた技術スタッフが到着したのは初冬でした。ドイツのE・Z社が担当する土木工事が大幅に遅れていたため、私たちが担当する水門の取り付け工事は、なかなか開始できませんでした。

住民の話によると、六月から

の雨期に入ると、今まで晴れていた大空が急変して黒雲が厚く垂れ下がり、辺りが暗くなつたかと思うと大粒の雨が大地を叩き、見る見るうちに周りは湖水のようになってしまうのだそうです。ヒマラヤの雪どけ水で増水した川は、豪雨を飲み込んで、ところ構わず荒れ狂い沿岸を洗い流してしまふといひます。この話が本当だったということとを、私は後で体験しました。

### 否応なしに技術長職を兼任することになる

四月の初め、工事が開始できるようになつてから、技術部長の村田さんが突如、熱病で倒れ、ラホールのキリスト教中央病院に入院しました。体力に自信がないため、彼は病院から帰国し、事務長の私は否応なしに、技術長職も兼ねることになってしまいました。

「恐いもの知らず」といひますが、私の工事開始の決意はまさにそのようなものでした。万が一、失敗したら、全責任を取る腹を決め、直ちに技術者たちと協議に入りました。

ここは六、七月が雨期で、それをはさんだ四、五月と八、九月の二回、物凄い暑さの夏がやつて来ます。雲一つない大空からは、太陽が連日ギラギラと焼くように照りつけ、大地が燃えます。日本製の寒暖計は、目盛りが五十度までしかないで、日陰でさえ役に立ちません。とんびの卵までがカラカラに乾いてしまひます。吹く風は熱いという

それは、北部パキスタンのマララ・ダムの工事現場でのことでした。

この灌漑用ダムは、インド、パキスタンの生命線といわれる水利権をめぐる紛争の解決のために、世界銀行などがパキスタン政府を援助して建設したものです。

このダム建設現場は、黒ずんだレンガ造りの建物が並ぶ古い

国境の街、シャルコットから、さらにインド寄りのところで、国境警備兵が常駐しています。インダス河の下流チャナブの河畔には、政府関係機関、並びに英国、ドイツ、オーストリア、日本のダム工事関係会社の事務所や工場、倉庫などの諸施設と宿舎がありました。隣接して、それらとは対照的な、屋根が低く窓のない泥の民家が、肩を付

より痛いのです。頬を針で刺されるようです。鉄材をうっかり素手で握ると火傷します。生まれて初めて経験する恐ろしい暑さです。頭からバケツで水をかぶり作業服を濡らしても、すぐ乾いてしまいます。人間の干物になりそうです。魔法ビンの水をガブガブ飲み、砕いた岩塩を舐めながら工事を連日強行しました。みんなの目が、汗がしみて赤くなっています。

現地の労働者たちの仕事振りは緩慢でしたが、日本の男たちは腹も立てずに、彼らの仕事上の未熟さを補いながら、言葉の壁も乗り越え、よく頑張っていました。日焼けした顔は真っ黒でした。工事は予想以上にはかどりました。

私は英、独、両者との折衝の合間に、水路の横にある労働者たちのキャンプにも顔を出して、彼らの生活に不安はないかを見て廻りました。その日の事務処理を終えて技術者たちの日本の家族への手紙の封筒のアドレスをタイプで叩いたりして、床に就くのはいつも夜中の一時を過ぎていました。

## 巨大な最後の水門が降ろされ

工事は雨期の六月に入っていました。

ヒマラヤの雪どけ水で、川は徐々に増水し始めています。第一期工事が完了するまでもう少しです。それまで雨が降らないようにと、毎晩祈るような気持ちで星空を眺めてからベッドに入りました。

だが、今夜は星が見えませんでした。湿っぽい風が吹いているので、雨にならないければよいが、とベッドに入っても心配でした。予想通り、激しい雨の音に起こされました。午前三時で堤防に上がりました。

砂漠のようだった河原は一変して、赤褐色の濁流が音を立てて流れています。上流も相当降ったようです。この勢いで増水すると、水圧で堤防が切れて、今までの努力が濁流の泡と消え、建設機械や諸設備は水没してしまします。

監視員を立てました。  
夜間を待たず、スタッフ全

員を動員し、薄暗いうちから工事を始めました。正午には、濁流が足許を洗い始めました。午後三時を少し廻った頃、リベツトを打ち終わった巨大な最後の水門が、ワイヤーロープを徐々に緩めながら降ろされました。

「やったぞ！」と、手を挙げて片山さんが叫びました。彼の叫び声に前後して、「エクセレント！」「グッド！」と英国人、ドイツ人技術者たちも喜びの声を上げました。彼らは心配の余り、早朝から私たちの工事を見ていたのです。この水門の周りの仮堤防は、あつという間に、水没し、濁流は水門に添ってごうごうと流れています。

## リーダーシップとは周りから与えられるもの

工事は成功したのです。日本人もパキスタン人も一つになつて力を合わせたからです。男として、こんなに嬉しいことはありません。この工事を始めた時、私はこのように万事うまくいくとは想像もしていませんでした。その上、私は数々の得難い教訓を頭でなく、体で

きました。リーダーシップもその一つです。日本のH社は、私に地位と権力を与えました。だが、このような苛烈といった言葉が適切な敵しい状況の中では、それらは何の役にも立ちません。むしろ、害にさえなる場合があります。なぜなら、幹部が仕事の焦りの余り、地位や権力（命令権）を振り廻せば、周りの人々の心を傷つけ、反感を買うからです。少しでも威張ったらおしまいです。

何かでちよつと得意になると、途端に自分が偉くなったように思い込んでしまうのが私です。自分が偉いかどうかは、自分で決めるものではありません。

リーダーシップも、企業から与えられるものでも、自分が獲得するものでもありません。それによって与えられるものだから、ということが分かりました。国のリーダーシップはどうでしょう。

巨大な工業力、経済を背景に、私たちは「日本はアジアの指導国だ」と思い込みがちです。し

かし、日本がアジアの指導国であるか否かは、日本人自身が決めることではなく、日本を取り巻く周りの人々や国々によって決められることです。

このことが頭でなく体で分かんなければ、私たち日本人は、いつまでも海外で失敗を繰り返すでしょう。

いつの間にか、東の空に一番星が輝き始めました。堤防の上

## 山崎房一さんを悼んで

(社) 国際MRA日本協会副会長 柳澤錬造

山崎房一さんは、去る四月二十日、関東労災病院に入院し、翌二十一日に手術を受け、術後の経過も良いように見えたのですが、六月二十五日忽然と他界されました。(享年六十七才)

六月三十日、横浜の妙蓮寺において、故郷の山口県漢陽寺のご住職以下僧侶六名によつて、しめやかに葬儀が執り行われました。告別式の後、沢山の人が最後のお別れをしている姿は、山崎さんの生前のお人柄を強く感じさせました。

を、想のラクダが美しいシルエットを描きながら南に向けて歩いていました……。

さようなら 山崎さん

これからもっともつと日本のために、そして世界のために活躍してもらわなければならなかった山崎房一さんが、去る六月二十五日に急逝されました。もうあなたのお元気なお声が聞けないとは信じられないと思います。この連載も残念ながらこれで最後となります。さようなら山崎さん。謹んでご冥福をお祈り致します。

訃報を聞かされた時、山崎さんは「ザキ」という愛称でみんなから親しまれ、いつも自分のことなど考えないで、人々のため、社会のために尽くしていた人だっただけに、惜しい人を亡くしてしまつたと思うと共に、この世に神様はいないのかと思つた程です。

山崎さんとの思い出は、走馬灯のように私の頭の中をかけめぐっています。昔オーストラリアのスタン・シエバード氏と一緒に、拙宅に泊まつていたこと

があります。背高く日本の布団からはみ出したシエバード氏の足を布団で柏餅のように包んで寝かせた心優しい人でした。

また、ブツクマン博士の八十才の誕生日とMRA二十周年を記念して、アメリカのマキノ島で開かれた世界大会に、私たち夫婦と一緒に山崎さんも参加し、劇「最高の経験」と共にワシントンに行つたり、毎日行動を共にしました。午後一時発の飛行機に乗らなくてはいけないのに、十二時過ぎまで組合にいて、山崎さんに言われて大急ぎでホテルに帰り、荷物をまとめて空港に駆けつけ、既にプロペラが廻り始めていた飛行機に飛び乗つて帰つてきたことや、マキノ島で山崎さんが紋付を着た時の笑顔が忘れられません。

その後、山崎さんは日立造船に入社され、バキスタンのダム工事の監督として派遣されました。現地では地元の人と一緒に生活し、地元の人も心を開いて山崎さんを信頼し、大幅に遅れていた工事も急ピッチで進み、とうとう納期通り完成させたのでした。

その後、山崎さんは日本の将来のためには教育が大切であると考えて、昭和四十七年「陽光学院」を創設して、子供の教育に心血を注ぎました。そして子供の教育には親が大切だと悟り、「母親(父親)心理学講座」を開いて親の在り方について真心を込めて訴えました。その反響は大きく、登校拒否の子供が学校へ行くようになつたり、家庭内暴力で断絶していた親子に会話が生まれ、親子の絆も戻り、家庭が平和になつたりしました。こうして山崎さんの教えによつて新しい人、新しい家庭が生まれ、それが津波のようになつて全国各地に広がつていきました。山崎さんの話はテレビ、ラジオで放送され、さらに感激した支持者が五大全国紙に一面大の見広告を出し、大きな反響を呼びました。

山崎さんの愛情の込めつたお話で、どれだけ沢山の人がチエンジし、希望を持つて人間として生きる喜びに目覚めたことか測り知れません。山崎さんは偉大な人でした。また今日の「国際MRA日本協会」も、山崎

# 一九九二年の主な活動(国内・国外)

国内	海外
<p>一月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西月例会(講師・川口昌宏氏)</li> <li>● 第十九回コー円卓会議ミーティング</li> </ul>	<p>● インド国際会議「内省、癒し、和解」(インド)</p> <p>● 国際チーム、カンボジア訪問(カンボジア)</p>
<p>二月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コー円卓会議ヨーロッパ中間会議に代表派遣</li> <li>● 関西月例会(カンボジア問題緊急報告会)</li> <li>● 第十六回通常総会</li> <li>● 文化講演会(講師・榊山絃一氏 東京大学文学部教授)</li> </ul>	<p>● ストックホルム・セミナーIII(スウェーデン)</p> <p>● 女性主催会議(シンパフエ)</p> <p>● 第十八回青年スタディー・コース(オーストラリア)</p> <p>● コー円卓会議ヨーロッパキャンベン</p>
<p>三月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西月例会(講師・藤井暉彦氏)</li> </ul>	<p>● アフリカ地域連絡協議会議(ボツワナ)</p>
<p>四月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 月例会(カンボジア報告会)</li> <li>● 第十九回月例会(講師・川北宇夫氏)</li> </ul>	<p>● ニュージーランド会議(ニュージーランド)</p> <p>● ジャマイカセミナー(ジャマイカ)</p>
<p>五月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第十六回MRA日本キャンベン</li> </ul>	<p>● ヨロッパ地域連絡協議会議</p>
<p>六月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第二十回コー円卓会議ミーティング</li> </ul>	<p>● 音楽会議(ポーランド)</p> <p>● アジア・太平洋地域連絡協議会議(マレーシア)</p>
<p>七月・八月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第二十一回コー円卓会議ミーティング</li> <li>● 関西月例会</li> <li>● 第四十六回コー世界大会に代表派遣</li> <li>● 第三回アジア・太平洋ユースキャンプに代表派遣</li> </ul>	<p>● 国際カンボジア青年会議(オーストラリア)</p> <p>● 第四十六回コー世界大会(スイス)</p> <p>● 第三回アジア・太平洋キャンプ(APC)(台湾)</p> <p>● 国際チーム上海訪問(中国)</p>
<p>九月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 月例会(MRA国際会議報告会)</li> <li>● 第二十二回コー円卓会議ミーティング</li> </ul>	<p>● 文化会議(ポーランド)</p> <p>● 国際MRA台湾協会、選挙浄化運動提唱(台湾)</p>
<p>十月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第十五回関西秋季大会</li> <li>● 第二十三回コー円卓会議ミーティング</li> <li>● 月例会(「信頼される政治と国民の責任」シリーズ①)(講師・自民党参議院議員・狩野安氏)</li> </ul>	<p>● 国際連絡協議会議(カナダ)</p> <p>● 大太平洋国際会議(西サモア)</p>
<p>十一月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西月例会(講師・スマナ・バルア氏)</li> <li>● 月例会(「信頼される政治と国民の責任」シリーズ②)(講師・民社党前参議院議員・柳沢錬造氏)</li> </ul>	<p>● フィジー国際会議(フィジー)</p>
<p>十二月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西月例会</li> <li>● 第十七回通常総会</li> <li>● 文化講演会(「信頼される政治と国民の責任」シリーズ③)(講師・社民連代表衆議院議員・山田五月氏)</li> </ul>	<p>● 青年キャンプ(オーストラリア)</p> <p>● コー冬季大会(スイス)</p>

れていた言葉から二つだけ取り上げたいと思います。

◎『今一番いいことをしよう。将来に不安や心配事があつても、将来がやつてきたら、その時一番いいことをすればいい。あの時「ああすればよかった」と思うことをやめよう。あの時一番いいと思つてやつたのだから』

◎『この世の中には二つのタイプの人間がいる。その一つは大きな幸せの中にいながら、その中の小さな不幸せのみを見つめて、いつもブツブツ不平を言いながら不幸せに生きている人間である。もう一つは、大きな不幸せの中にいながら、その中の小さな幸せのみを見つめて、いつも幸せに生きている人間である』

さんの提言によるもので、自分で定款の案文を作り、創立総会でも定款の提案説明をされて協会が発足したことを忘れてはいけないと思います。

また忘れないのは、山崎さんのお母さんで、立派な方でした。昔山口県の生家を訪ねた時、「いつもはこの奥の温泉場に行くのですが、今日はどうしても行きとくなかった。あなたが来るので、神様が私を引き止めて下さつたのです」と言いながら仏壇の扉を開けて、「お父さん、フーちゃんのお友達が来てくれました。一緒にフーちゃんのお話を聞いて下さい」と言つて、私が山崎さんの活躍振りを話すと、お母さんは、「フーちゃんは特に頭がよいわけでもないのに、そのような仕事ができるのは神様がついて下さるからです。これからもフーちゃんが世界のため、人々のために役に立つよう祈つています」と言われました。

もう山崎さんはいません。でも私たち一人ひとりの心の中に生きています。これからはあの北極星のようになつて、大空の上から私たちを見守つて導いて下さい、最も愛した奥さんご家族を護つてあげて下さい、と祈るの切切です。

合掌



## 住友吉左衛門氏 と フランク・ブックマン博士

社国際MRA日本協会会長  
住友 義輝

住友吉左衛門氏の葬儀が去る七月一日、増上寺で住友家と住友グループ二十一社によって執り行われた。享年八十四才。戦後は住友諸事業の社長という重荷から離れ、学生時代に斎藤茂吉に師事したアララギの歌人、泉幸吉として「雲光」、「途上」などいくつかの歌集を出した。聚落よりも田舎を愛し、海よりも山を愛し、何よりも孤を愛する寡欲活淡な人であり、その風体は正常で、上品で、おおらかで、とりわけ行儀がよろしいと川田順は住友回想記に評している。

しかし、十六代家長としての歴史の重みはひと時もその心か

ら離れることなく、三年前、住友事業の源流、別子銅山開鉱三百年記念行事に際して、「この銅山（やま）を神とし仰ぎ幾代かも掘りつぎて来しことの畏い」と詠んでその碑を残した。

◇

サンフランシスコ講和条約発効二年後の昭和二十九年、吉左衛門氏（以下叔父を斯う呼ばせて頂きます）をMRAの創始者フランク・ブックマン博士に引き合わせたのは三井高維夫妻で、まさに劇的な出会いと言えよう。フランクは一目で吉左衛門という人を見込んだ。吉左衛門氏はフランクに父親の暖かさ信頼

を覚えた。吉左衛門氏はそこで敗戦の本当の意味を知った。そして日本がどう変わるべきか、そのために先ず自分が変わらねばならないということを知った。春子夫人とスイス、コーのMRA世界会議場マウンテンハウスを去る時、「日本を救いたいと思うなら、自分を忘れ、全力投球で斗え」というフランクの声が電撃のように彼を打った。

◇

住友の伝統精神、国家社会への報恩奉仕は吉左衛門氏の生活信条であるが、フランクのメッセージ、道義による世界の再造は地球大であり、問題の解答は自分にあるという。これは大きな挑戦であった。二年後、フランクの来日に際して三井家と共催の午饗会の席で、系列会社の社長たちを前に、控えめで進んでスピーチをしたことのない吉左衛門氏が、「経営者は国の道徳と精神の問題にも責任を持つ必要がある」と、心を込めて話した。

その翌年、アメリカのミシガン州、マキノ島で開かれたMRA

A世界大会に日本の青年団指導者一行百人が招かれた。彼らが作った寸劇「明日への道」に、水を盗む貧しい農民の役で出て欲しいと頼まれた吉左衛門氏は、少し考えた末引き受けた。それまではお互いに話を交わすことなどありえなかったが、コーで知り合ったばかりに敬愛し合うことになった全造船労組の柳澤錬造委員長も一緒に一役をかった。吉左衛門氏は劇が終わる度に、舞台から観客に、「私のような者が戦争に間接的な責任を持っているのです。暴力には反対でしたがそれを止める道義的な勇氣を持っていませんでした。これからは戦争がもたらした傷あとを癒すことに全力を尽くします」と語りかけた。

この「明日への道」は、日本でも各地から招請を受け、東京を初め、大阪、神戸、玉野、新居浜等、十一都市を訪ねたが、「外国ならまだしも日本で、しかも大阪で、百姓姿で鉄をかついで舞台上上がるとはとんでもない。住友グループ全体の名譽に関わる」と、住友グループの長老たちが吉左衛門氏の出演に反

対した。しかし、フランクに会って以来、こだわりを捨てた吉左衛門氏は、怖れない自由な心で、当主としてだけでなく、人に仕えることが自分の責任であるとの信念を貫いて劇に参加した。その吉左衛門氏の姿を目の当たりにした社員たち特に工員たちの感激ぶりは、反対した重役諸公にとっては嬉しい誤算であった。



●「明日への道」の住友吉左衛門氏（中央）と柳澤鎌造氏（左端）

聞いて吉左衛門氏は、父を亡くしたようだと言った。オックスフォード大学のアラン・ソーンヒル先生は「コーで、それまで他人との同室など考えられなかった吉左衛門氏のルームメイトだったが、胃弱の吉左衛門氏に逆立ちをすればよい」と半ば冗談で言ったところ、先生の前で懸命に逆立ちをやるうとしたという。吉左衛門氏の逆立ちを見た人は他にはいない。そのソーンヒル先生も数年前に他界された。私も夫婦がコーから帰ると先ず吉左衛門氏を藤沢の邸宅に訪ねてその年の様子を話すのを常とした。春子夫人の用意された紅茶を飲みながら、思い出の多い人の話になると身を乗り出して聞いた。マウンテンハウスの修復に各国から浄財を募っているという話を聞いて大層心を痛め、早速送金の手続をするよう春子夫人に言った。「最近日本のMRAはどうしていますか」と聞かれて、「松山幸雄の『イメージアツプ』という本を読んで思ったのですが、MRAもそれを少し考えていい。一冊お届けしまし

よう」と言ったら、「ボクはイメージアツプということは好きじゃないんですよ」というお答えが返ってきた。私も夫婦が今日あるのは、叔父吉左衛門氏に負うところが多い。世界のことを気にかけるがらも、だんだんと世の動きに疎くなる叔父を出来るだけケアしたいと思っていた私たちがであるが、気が付いてみればフランクのスケールで大きくケアされている。吉左衛門氏の逝去に対してラジモハン・ガンジー氏（マハトマ・ガンジーの孫）、キム・ビーズリー氏（元オーストラリア文部大臣）など世界の多くの友人たちから弔意が寄せられた。イギリスの元国連大使アーチー・マッケンジー氏は次のように書いて送った。「住友吉左衛門氏は日本のためになることのためならば、自らの快適な生活や名声など全てを喜んで犠牲にする人だった」。

七月五日付のイギリス、タイムズ紙では吉左衛門氏の逝去を伝える記事の中で、日本のMRAでの活躍振りが紹介された。

## 事務局近況

●MRA国際会議報告会のご案内

今夏のスイス、コー世界大会もいよいよ大詰めを迎えようとしています。今回も身近な問題から世界の様々な問題への解決や癒しを求めて、数多くの参加者が日本はもとより世界中から集っています。また、香港及び中国（広東省）でも第四回アジア・太平洋ユースキャンプが開かれ、日本からの五人を初め五十二名が参加しました。そこで今年もその体験や感想を報告して頂くMRAコー世界大会及びアジア・太平洋ユースキャンプ報告会を九月十日（金）午後六時半より全郵政会館地下大会議室（JR千駄ヶ谷駅徒歩三分）にて開催しますので、お気軽にご参加下さい。

●事務局仮移転のお知らせ

現住所一帯の再開発に伴うビル新築工事のため、事務局が十月（予定）より近くのビルに仮移転します。住所等は次号のニュースでお知らせしますが、電話、ファックスの番号は変わりません。

●ヤング懇談会

去る七月四日、第十九回ヤング懇談会が古都鎌倉の散策を行いました。梅雨の谷間の晴天に恵まれ、中国、台湾、アメリカの友人たちと楽しい一日を過ごし、交流の輪が広がりました。次回の第二十回ヤング懇談会は、九月五日に港町横浜めぐりを計画しています。気持ちやヤングな人は誰でも歓迎いたしますので、お気軽にお問い合わせ下さい。